

2020（令和2）年度

自己点検・評価報告書

沖縄キリスト教短期大学

【目次】

基準Ⅰ．建学の精神と教育の効果・・・・・・・・・・・・・3

基準Ⅱ．教育課程と学生支援・・・・・・・・・・・・・9

基準Ⅲ．教育資源と財的資源・・・・・・・・・・・・・22

基準Ⅳ．リーダーシップとガバナンス・・・・・・・・・・・・・30

基準Ⅰ. 建学の精神と教育の効果

建学の精神・教育理念、教育目的・目標、学習成果(Student Learning Outcomes)、教育課程及び教育プログラムの相互の関係について、「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」の三つの方針を含めて明確に示す。学習成果を焦点とした教育課程及び教育プログラムを構築し、教育の実践においては量的・質的データを基にした学習成果の分析・評価を行い、恒常的かつ系統的な自己点検・評価に基づいて、教育研究活動の見直しを図る内部質保証の仕組みを確立し行っていることを明確に示す。

建学の精神は、短期大学の創設者・設置者の教育理念・理想を源にする大学経営の自主性を示すものであり、短期大学の教育目的・目標と学習成果を達成するための基礎となるものである。そのため短期大学はこれを明確にして学内外に示すとともに、学内において共有することが重要である。建学の精神は、教育基本法に基づいた公共性を有し、短期大学の継続的な発展を遂げるために自身の個性・特色として継承されるべきである。また、時代や社会の変化の中にあつて社会のニーズと結び付いているか、定期的に点検することが求められる。短期大学は地域・社会の文化の担い手である。地域住民をはじめ地域・社会の公共機関や企業などから必要不可欠存在として認知され、支持されるよう、地域・社会の幅広いニーズに応えその活性化を図る責務を果たさなければならない。教育の効果は、短期大学の教育の質を保証するものでなければならない。特に私立短期大学においては、建学の精神から成る独自性及び自主性に基づく特色とともに、人材の養成の成果が社会全体に影響を及ぼすことに鑑み、公共性の高いものでなければならない。教育の効果を高めるためには、建学の精神と結び付いた教育目的・目標により定めた学習成果を獲得させるための、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(以下、三つの方針という)を一體的に策定し、また、学習成果を実際に学生が獲得したかについて点検・評価する査定(アセスメント)の手法を有し、その結果に基づき教育が効果的に行われているかを検証しなければならない。査定(アセスメント)は三つの方針の関係を見直し整備するためのPDCA サイクルを含む系統的なものである。短期大学は、自己点検・評価活動に基づいた教育研究活動の見直しを継続的に行う内部質保証が求められる。

<A.建学の精神>

短期大学は、学科・専攻課程の教育目的・目標、学習成果、教育課程及び教育プログラムの基礎となる建学の精神を学内外に示さなければならない。また、地域・社会に貢献することが求められる。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月 状況	① 2020 【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③ 【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等 の名称
基準Ⅰ-A-1 建学の精神を確立している。	(1) 建学の精神は短期大学の教育理念・理想を明確に示している。	短期大学の教育目的は「キリスト教精神に基づいた学校教育を施し、人格の完成をめざし、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」としており、建学の精神はこれを明確に示している。 (根拠) 沖縄キリスト教短期大学学則第1条	(課題なし) ★継続して行う	-	-	宗教委員会
	(2) 建学の精神は教育基本法及び私立学校法に基づいた公共性を有している。	寄付行為第3条で「この法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従い、キリスト教精神に基づく学校教育を行い、個人の人格形成に努め、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」と定めており、それに基づき公共性を有している。 (根拠) 寄付行為	(課題なし) ★継続して行う	-	-	理事会
	(3) 建学の精神を学内外に表明している。	大学案内、ホームページ等に掲載している。 (根拠) 大学案内、HP	(課題なし) ★継続して行う	-	-	宗教委員会
	(4) 建学の精神を学内において共有している。	大学案内、ホームページ等に掲載しているほか、前期、後期にもたれる「キリスト教週間」等において建学の精神にそつたプログラムを必ず持っている。また学生に対しては必修科目である「キリスト教Ⅰ、Ⅱ」や選択必修科目の「キリスト教人間学」の中でさらに深く建学の精神を学んでいる。教職員においては、毎年開催される「建学の精神ワークショップ」において共有している。 (根拠) 大学案内、HP、宗教委員会議事録、シラバス	(課題なし) ★継続して行う	-	-	宗教委員会
	(5) 建学の精神を定期的に確認している。	月に一度の定期宗教委員会において建学の精神にそつた企画の検討、確認をしている。また、毎年専任教職員を集めた宗教部主催の「建学の精神ワークショップ」において、建学の精神を学んでいる。 (根拠) 宗教委員会議事録	(課題なし) ★継続して行う	-	-	宗教委員会
基準Ⅰ-A-2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。	【教務課】(免許状更新講習について)①科目等履修生を受け入れている。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として、教員免許更新制に対応した「免許状更新講習」開催を中止した。 【企画課】(出前講座について) 高大接続プログラムの一環として、教員が県内高等学校を訪れて、高校生を対象に、大学での「学が喜び、面白さ」を伝える講座を実施。2019年度は6回実施したが、2020年度は新型コロナウイルスの影響により4回の実施となった。 【総務課】(公開講座について) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため2020年度公開講座は開講できなかった。	【教務課】- 【企画課】★継続して行う 【総務課】(課題: 募集しても定員に満たず、閉講となる場合がある)★ニーズの把握と広報について検討する。	【教務課】②課題: 2021年度免許状更新講習の実施 【企画課】①今年度も高校側の要望に応え出前講座を継続して実施したが、新型コロナウイルスの影響により、3校4回の実施となった。②課題なし 【総務課】①新型コロナウイルス感染拡大防止のため開講できなかった。②リモートでの実施を検討する。	【教務課】新型コロナ感染拡大防止のための十分な対策を講じながら、夏に予定している免許状更新講習の開催に向け取り組む。 【企画課】高校のニーズを調査し、プログラムの拡充を検討する。 【総務課】(課題: 募集しても定員に満たず、閉講となる場合がある。)継続して、ニーズの把握と	【教務】教務委員会、短大教授会 【企画】広報・地域連携推進委員会 【総務】公開講座委員会	

	(根拠) 【教務課】沖縄キリスト教短期大学学則第35条、科目等履修生に関する細則、科目等履修生受付名簿 【企画課】HP、広報・地域連携推進委員会議事録 【総務課】事業報告書		(根拠)	広報について検討し、リモートでの講座を計画する。	
(2) 地域・社会の地方公共団体、企業(等)、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。	大学が所在する西原町との包括連携を結び、毎年意見交換会を実施し双方の課題解決に向けた取り組みを行っているほか、西原町教育委員会とは学校教育や理科教育支援事業についての覚書を交わしている。理科教育支援事業は2020年度で12年目を迎えており、西原町からも高評価をもらっている。また、学校教育支援事業も教員の負担軽減につながっているとの評価を受けた。	(課題なし) ★継続して行う	①今年度も西原町との意見交換会を実施し、双方の課題解決に向けて話し合いを行った。また、西原町教育委員会と覚書を交わしている理科教育支援事業や学校教育支援事業は西原町から高い評価を受けていて次年度も継続して実施する。②課題なし	継続して行う	広報・地域連携推進委員会
	(根拠) 西原町との包括連携協定書、覚書、広報・地域連携推進委員会議事録、理科教育支援委員会、学校教育支援事業連絡調整会議		(根拠) 西原町との包括連携協定書、覚書、広報・地域連携推進委員会議事録、理科教育支援委員会、学校教育支援事業連絡調整会議		
(3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献している。	【学生課・企画課】例年サークルでボランティア活動を行っていたり、西原町主催のイベントへボランティアで参加していたが今年度は新型コロナの影響で活動を自粛し、イベントも中止となり活動が出来なかった。	【学生課】(課題・多くの教職員・学生の参加が望ましい) ★新入生オリエンテーションなどのイベントを利用し強くアピールしていく	【学生課】2020年度はコロナウイルス感染拡大に伴い、ボランティアが制限された。後期から徐々にではあったが、清掃活動(WLOサークル)や宗教部・学生宗教委員の夜回りボランティアなど行っている。 【企画課】西原町主催のイベントが新型コロナの影響で中止となったため、ボランティア活動は行っていない。	【学生課】特に清掃活動ボランティアに関しては、WLOサークルと学生会が一緒に活動できるよう取り組む。 【企画課】イベントが開催されるのであればボランティア活動を行う	【学生】学生生活委員会 【企画】広報・地域連携推進委員会
	(根拠)「課外活動届」、HP		(根拠)HP		

<B 教育の効果>

教育の効果は、短期大学の教育の質を保証するものでなければならない。短期大学は、建学の精神に基づく教育目的・目標及び学習成果を明確にし、それに基づき三つの方針を一体的に策定し、学内外に示さなければならない。教育の効果をもとめるために短期大学は、教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検しなければならない。三つの方針は、教育目的・目標、学習成果に基づき組織的議論を重ねた上で策定し、一貫性・整合性のあるものでなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】2021年3月状況	① 2020 【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③ 【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等 の名称
基準Ⅰ-B-1 教育目的・目標を確立している。	(1) 学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。	【英語科】学則第4条の2に教育研究上の目的を定め、それに基づき英語科FDで定期的に検証している。 【保育科】①学則第4条の2に教育研究上の目的を定め、それに基づき学科会議やワークショップ等で定期的に教育目的・目標について検討を行っている。	【英語科】(課題なし) ★英語科FD・短大FDで話し合っている。2020年度に改善予定 【保育科】(課題なし) ★2023年度に「領域の移行」に伴うカリキュラムの変更を予定しており、その作業にあわせ2022年度に再度検討を行う予定である。	【英語科】英語科FDで話し合った。 【保育科】-	-	学科会議
	(2) 学科・専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。	【英語科】①学生便覧やホームページ、大学案内等で公表している。 【保育科】①学科で検討された教育目的・目標をHPや大学案内等で公表している。	【英語科】(課題なし) ★継続して行う 【保育科】(課題なし) ★継続して行う	【英・保】- (根拠)	-	
	(3) 学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検している。(学習成果の点検については、基準Ⅱ-A-6)	【英語科】キャリア支援課が行う「卒業生に関するアンケート」結果から、企業が求める人材像と教育目的に乖離がないか学科会議等で検討している。(アンケートは3年に1度実施され、次回は2021年度に予定している。) 【保育科】県内の関係団体と連絡会を定期的に開催し意見交換を行い、人材育成について連携を取り、カリキュラムへと反映するよう科会等で検討・実施している。	【英語科】 ★キャリア支援課で行っている「卒業生に関するアンケート」を利用して、英語科のCPとDPの検証を英語科FDで話し合い教学マネジメントへ報告する。 【保育科】(課題なし) ★継続して行う	【英・保】- (根拠)	-	学科会議 キャリア支援委員会
		(根拠) 【英語科】卒業生に関するアンケート2019 【保育科】連絡会議事録、科会議事録				

基準 I-B-2 学習成果 (Student Learning Outcomes)を定めている。	(1)短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。	【英語科】毎年英語科FDや教学マネジメント委員会で見直し、その内容を学生便覧やホームページに載せている。 【保育科】学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で学習成果について定めている。則ち第4条の2に定められている教育研究上の目的との運動が明確になるよう、2020年学科会議において学習成果の修正を行った。	【英語科】(課題なし) ★継続して行う	【英語科】継続して行う。 【保育科】-	【英・保】-	教学マネジメント委員会
	(根拠)ホームページ、学生便覧	【英語科】毎年英語科FDや教学マネジメント委員会で見直し、その内容を学生便覧やホームページに載せている。 【保育科】学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で学習成果について定めている。則ち第4条の2に定められている教育研究上の目的との運動が明確になるよう、2020年学科会議において学習成果の修正を行った。	【英語科】(課題なし) ★継続して行う	【英語科】継続して行う。 【保育科】-	【英・保】-	教学マネジメント委員会、学科FD
	(根拠) 【英語科】教学マネジメント委員会規程、教学マネジメント委員会議事録 【保育科】学科ワークショップ議事録、学科会議議事録、教学マネジメント委員会議事録	【英語科】毎年英語科FDや教学マネジメント委員会で見直し、その内容を学生便覧やホームページに載せている。 【保育科】学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で学習成果について定めている。則ち第4条の2に定められている教育研究上の目的との運動が明確になるよう、2020年学科会議において学習成果の修正を行った。	【英語科】(課題なし) ★2022年度に再度検討を行う予定	【英語科】継続して行う。 【保育科】-	【英・保】-	教学マネジメント委員会、学科FD
	(根拠) 【英語科】教学マネジメント委員会規程、教学マネジメント委員会議事録 【保育科】学科ワークショップ議事録、学科会議議事録、教学マネジメント委員会議事録	【英語科】毎年英語科FDや教学マネジメント委員会で見直し、その内容を学生便覧やホームページに載せている。 【保育科】学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で学習成果について定めている。則ち第4条の2に定められている教育研究上の目的との運動が明確になるよう、2020年学科会議において学習成果の修正を行った。	【英語科】(課題なし) ★2022年度に再度検討を行う予定	【英語科】継続して行う。 【保育科】-	【英・保】-	教学マネジメント委員会、学科FD
(3)学習成果を学内外に表明している。	【英語科】毎年学生便覧やホームページに載せている 【保育科】学習成果をStudent HandbookやHP等で公表している。	【英語科】★継続して行う 【保育科】★継続して行う	継続して行う。	-	-	-
	(根拠) 【英語科】学生便覧、ホームページ、大学案内 【保育科】Student Handbook、ホームページ、大学案内	【英語科】★継続して行う 【保育科】★継続して行う	継続して行う。	-	-	-
(4)学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らし、定期的な点検している。	【英語科】学校教育法の短期大学の規定に照らし、学習成果を定期的に点検している。 【保育科】学科会議やワークショップ、教学マネジメント委員会等で学習成果について定めている。 2018年度・短期大学の規定に照らし、2018年8月保育科ワークショップ、また2018年6月～2019年1月にかけて学科会議にて審議を重ね点検を行い、修正、決定している。 2020年度・教育研究上の目的との運動が明確になるよう、2020年10月～12月の学科会議において学習成果を修正・決定、教学マネジメントで報告している。	【英語科】(課題:整える必要がある) ★学校教育法第108条との整合性をとらえる必要がある。英語科FDで点検し、教学マネジメントへ報告する。 【保育科】(課題なし) ★2023年度に「領域の移行」に伴うカリキュラムの変更を予定しており、その作業にあわせ2022年度に再度検討を行う予定である。	【英語科】- 【保育科】-	-	-	教学マネジメント委員会
	(根拠) 【英語科】- 【保育科】学科ワークショップ議事録、学科会議議事録、教学マネジメント委員会議事録	【英語科】(課題:整える必要がある) ★学校教育法第108条との整合性をとらえる必要がある。英語科FDで点検し、教学マネジメントへ報告する。 【保育科】(課題なし) ★2023年度に「領域の移行」に伴うカリキュラムの変更を予定しており、その作業にあわせ2022年度に再度検討を行う予定である。	【英語科】- 【保育科】-	-	-	教学マネジメント委員会
基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(三つの方針)を一体的に策定し、公表している。	(1)三つの方針を関連付けて一体的に定めている。	【英語科】学科会議、英語科FD、短大FD、教学マネジメント委員会等で審議し、三つのポリシーを関連付けて一体的に定めている。 【保育科】学科のワークショップ、学科会議、教学マネジメント委員会等で三つの方針を定めている。2020年度10月～12月に教育研究上の目的との運動が明確になるよう、学習成果を修正し、同時期に三つの方針を関連付け、一体的に修正・決定した。	【英語科】(課題なし) ★継続して行う 【保育科】(課題なし) ★2023年度に「領域の移行」に伴うカリキュラムの変更を予定しており、その作業にあわせ2022年度に再度検討を行う予定である。	【英語科】継続して行う。 【保育科】-	-	教学マネジメント委員会、学科FD
	(2)三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。	【英語科】3つの方針は、英語科FDや短大FD、教学マネジメント委員会等で議論し、策定している。 【保育科】学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で検討・策定を行っている。	【英語科】(課題なし) ★継続して行う 【保育科】(課題なし) ★継続して行う	【英語科】夏の英語科FDで協議し、教学マネジメントへ報告している。 【保育科】-	-	教学マネジメント委員会、学科FD
	(根拠) 【英語科】教学マネジメント委員会規程、教学マネジメント委員会議事録、英語科会議、教授会、短大FD 【保育科】教学マネジメント委員会議事録、学科ワークショップ議事録、学科会議議事録	【英語科】3つの方針は、英語科FDや短大FD、教学マネジメント委員会等で議論し、策定している。 【保育科】学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で検討・策定を行っている。	【英語科】(課題なし) ★継続して行う 【保育科】(課題なし) ★継続して行う	【英語科】夏の英語科FDで協議し、教学マネジメントへ報告している。 【保育科】-	-	教学マネジメント委員会、学科FD

(3)三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。	<p>【英語科】アドミッションポリシーは学生募集や入学前教育を実施する際に活用している。また入学前オリエンテーションやフレッシュマンセミナーでカリキュラムツリーを用いてカリキュラムポリシーとディプロマポリシーの連動について説明を行っている。すべての授業には到達目標が設定されており、この目標を達成するために、シラバスに沿って授業を展開している。よって本学科では3つの方針を踏まえた教育活動を行っている。</p> <p>【保育科】入学者オリエンテーションやフレッシュマンセミナーでは、カリキュラムツリーを用いて教育研究上の目的、学習成果と三つのポリシーとの連動について説明を行っている。また、カリキュラムマップには、すべての授業と学習成果、ディプロマポリシーとの関係が示されている。シラバスはカリキュラムマップを参照し立てられており、それに沿った授業を展開している。よって本学科では三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。</p>	<p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【英語科】継続して行う。</p> <p>【保育科】-</p>	-	<p>教授会、教学マネジメント委員会、学科FD</p>
(4)三つの方針を学内外に表明している。	<p>【英語科】毎年学生便覧やHP等で公表している</p> <p>【保育科】三つの方針をStudent HandbookやHP等で公表している。</p>	<p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【英語科】継続して行う。</p> <p>【保育科】-</p>	-	
(根拠)	<p>【英語科】学生便覧、ホームページ、フレッシュマンセミナーシラバス</p> <p>【保育科】Student Handbook、ホームページ、フレッシュマンセミナーシラバス</p>	(根拠)	(根拠)		
(根拠)	<p>【英語科】学生便覧、ホームページ</p> <p>【保育科】HP情報の公開、Student Handbook、大学案内</p>	(根拠)	(根拠)		

<C 内部質保証>

短期大学は教育の継続的な質の保証を図り、社会的に魅力ある短期大学であり続けるために、自己点検・評価に積極的に取り組み、それに基づき教育研究活動の見直しを継続的に行う内部質保証を機能させることが必要である。なお、理事長、学長など、大学の管理運営組織が自己点検・評価とそれに基づいた内部質保証に率先して関わり、ALOの任務を支援し、その体制を構築しなければならない。

自己点検・評価活動に際しては、次の四つの視点で進めることが重要である。①具体的活動を行っている当事者が責任者となる、②学習成果を焦点にする、③根拠に基づき誠実、公正、客観的に行う、④学内全体の対話を通じて改善方法を考え出す。なお、自己点検・評価活動に加え、独自の外部評価や相互評価を行うことも有益である。教育の質を保証するための査定(アセスメント)には、到達目標設定、事実の評価など、計画(資源配分を含む)、実行、検証、改善というPDCAサイクルを継続的に用いなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】2021年3月状況	① 2020【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③【Act】 改善へ向けた取り組み	(必須) 検討する委員会等の名称
基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。	(1)自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。	<p>短期大学自己点検委員会規程を整備し、委員会を設置している。</p> <p>(根拠)自己点検委員会規程、議事録</p>	(課題なし) ★継続して行う	<p>今年度も委員会を開催し、前年度の自己点検・評価を行った。</p> <p>(根拠)</p>	継続して行う	短大自己点検委員会
	(2)日常的に自己点検・評価を行っている。	<p>毎年、年度末に自己点検を行っている。</p> <p>(根拠)HP情報の公表、自己点検報告書</p>	(課題:PDCAの明確化)	<p>2019年度より自己点検・チェック様式を変更し、PDCAのサイクルが明確になっている。また、この様式では学長、短大部長、教学支援部長、事務局長による総評も行っている。②PDCAの明確化</p> <p>(根拠)</p>	継続して行う	短大自己点検委員会
	(3)定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。	<p>毎年度自己点検報告書を作成し、HPで公表している。</p> <p>(根拠)HP情報の公表、自己点検報告書</p>	(課題なし) ★継続して行う	(根拠)	-	短大自己点検委員会
	(4)自己点検・評価活動に全教職員が関与している。	<p>学内全教職員が閲覧できるdesknet'sに自己点検に関する資料を掲載し、共有している。また、各部署(各種委員会)ごとに自己点検を行っており、全教職員が関与している。</p> <p>(根拠)HP情報の公表、自己点検報告書</p>	(課題:全教職員が関わる体制作り)★全教職員が評価基準を閲覧できる仕組みを作り、理解を促す。	<p>①短大FDワークショップにて評価基準の説明及び今後の活動について共有した。 ②課題なし</p> <p>(根拠)2020年9月 短大FD議事録</p>	継続して行う	短大自己点検委員会
	(5)自己点検・評価活動に高等学校等からの意見聴取を取り入れている。	<p>高等学校関係者からの意見聴取していない。</p> <p>(根拠)なし</p>	(課題:意見聴取が必要である) ★2020年度には外部評価委員会を設置し、高等学校関係者を含めた意見聴取を9月末までに行う。	<p>高校関係者から意見を聴取する外部評価委員会は次年度開催予定となり、今年度はアセスメントや自己点検の整備に努めた。</p>	自己点検活動の1つとして高等学校関係者からの意見聴取の方法を検討する。	短大自己点検委員会
	(6)自己点検・評価の結果を改革・改善に活用している。	<p>毎年度各部署による目標や計画が立てられ、それに関する実績を委員会や部署が検証し、出来ていない部分に関しては改善を促している。</p>	★継続して行う	<p>2019年度より自己点検・チェック様式を変更し、PDCAのサイクルが明確になっている。そのことにより未実施項目の実施だけではなく、それぞれの項目で改善への取組を促している。</p>	継続して行う	自己点検委員会

		(根拠)自己点検・評価シート(HPへも掲載)		(根拠)		
基準 1-C-2 教育の質を保証している。	(1)学習成果を焦点とする査定(アセスメント)の手法を有している。	<p>【保育科】①満足度調査②授業評価アンケート③受講者数・閉講クラス④成績分布状況⑤外部評価の5つの指標を用いて学科会議でアセスメントを行い、教学マネジメント委員会で報告している。</p> <p>【英語科】5つのアセスメントを用いて学習成果の検証を行っている。①満足度調査②授業評価アンケート③受講者数/閉講クラス④成績分布状況⑤TOEIC IPテスト。</p> <p>【教マネ】 2020年度は、三つのポリシーに基づいた教育内容の点検及び評価体制の構築と内部質保証を推進する目的で、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を定め、査定方法及び調査等について明確にした「アセスメント実施スケジュール」を作成した。</p>	<p>【保育科】★2020年度より、2019年度実習評価票を取り入れた外部評価の検討を行う ・学習成果検証の方法について検証する。 ・検証の結果出た課題をもとに次年度カリキュラムを検討する。</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【保育科】①2020年度に行った「2019年度学習成果検証」において、2019年度保育実習Ⅰ(保育所)・Ⅱ(保育所)・幼稚園実習の評価票を外部データとして取り入れる。 ②今後、保育実習Ⅰ(施設)のデータも取り入れることを検討する。</p> <p>【英語科】【英語科】5つのアセスメントを用いて学習成果の検証を行っている。①満足度調査②授業評価アンケート③受講者数/閉講クラス④成績分布状況⑤TOEIC IPテスト。</p> <p>【教マネ】①三つのポリシーに基づいた教育内容の点検及び評価体制の構築と内部質保証を推進する目的で、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を定め、査定方法及び調査等について明確にした「アセスメント実施スケジュール」を作成した。(2020年度教学マネジメント委員会事業報告「アセスメント実施スケジュールの策定」)②アセスメント実施スケジュールに則り、点検・評価の結果を具体的に改善へと繋げる取り組みが不十分である。</p>	<p>【保育科】 2020年度に行った「2019年度学習成果検証」において、2019年度保育実習Ⅰ(保育所)・Ⅱ(保育所)・幼稚園実習の評価票を外部データとして取り入れ、検証を行った。 今後、保育実習Ⅰ(施設)のデータも取り入れることを検討する。</p> <p>【英語科】- 【教マネ】三つのポリシーを踏まえた教育内容等の点検・評価・改善体制を構築し、内部質保証を確立するため、アセスメント実施スケジュールに則り、適切に点検・評価・改善を実施する。 また、教学アセスメント担当を教務課に配置(2020年10月～)し、IRと連携して全学的なアセスメントを推進する。【2021年度教学マネジメント事業計画(1)「教学マネジメントにおけるPDCA確立に向けた取り組み」より】</p>	<p>学科会議 教学マネジメント委員会</p>
		<p>(根拠)【保育科】学科会議議事録、保育科2019年度アセスメント(学習成果検証)報告書、教学マネジメント委員会議事録 【英語科】英語科FD、短大FD、教学マネジメント委員会議事録、アセスメントポリシー 【教マネ】「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」、「アセスメント実施スケジュール」、「教学アセスメント担当」について(申し合わせ)</p>	<p>(根拠) 【保育科】- 【英語科】「2020アセスメント」2020年7月29日、8月開催教学マネジメント議事録 【教マネ】「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」、「アセスメント実施スケジュール」、「教学アセスメント担当」について(申し合わせ)、教学マネジメント委員会議事録 第3回(2020.10.15)、第5回(2021.1.25)</p>			
基準 1-C-2 教育の質を保証している。	(2)査定の手法を定期的に点検している。	<p>【保育科】2020年度、学科会議において学習成果検証の時期や手順、指標の適切性について点検を行った。</p> <p>【英語科】(1)で述べた学習成果のアセスメントは5つの到達目標のデータを収集し、英語科FDにて検証され、その後短期大学FDでディスカッションし、教学マネジメント委員会で報告されている。</p>	<p>【保育科】 ★毎年6月に学習成果検証の指標や手法について点検を行い、その年度の検証を開始する</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【保育科】 ①2020年度6月科会において「2019年度学習成果検証」を行った際に、外部評価を含めた5つの指標が適当であるか、また8月の科会において成果検証の担当や手順について点検した。②今後、外部評価のデータの何を指標に分析を行うか検討が必要である。また保育実習Ⅰ(施設)のデータも取り入れることを検討する。</p> <p>【英語科】継続して行う。6月の教学マネジメント委員会にて、学習成果検証の指標や手法について点検している。</p> <p>【教マネ】②アセスメント実施スケジュールに則り、点検・評価の結果を具体的に改善へと繋げる取り組みが不十分な為、定期的な点検に及んでいない。</p>	<p>【保育科】 2020年度6月科会で、外部評価を含めた5つの指標が適当であるか、また8月の科会で学習成果検証の手順や、担当者の分担の必要性について点検した。今後、外部評価のデータの中に、「保育実習Ⅰ(施設)」の評価票も加える必要がある。また、検証の担当者は2名1組が望ましいと結論した。</p> <p>【英語科】-</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>
		<p>(根拠) 【保育科】学科会議議事録、保育科2019年度アセスメント(学習成果検証)報告書 【英語科】英語科議事録、教育マネジメント委員会議事録、アセスメントポリシー</p>	<p>(根拠) 【英語科】6月教学マネジメント委員会議事録</p>			

<p>(3)教育の向上・充実のためのPDCAサイクルを活用している。</p>	<p>【保育科】学習成果検証を行い、その後短期大学FDでディスカッションし、自己点検委員会を経て教学マネジメント委員会で報告されている。また、学習成果検証の結果をふまえ、次年度カリキュラムの編成を検討、変更を検討している。授業評価アンケートは学科会議で取り上げ、学科の全体的な課題を共有している。さらに各教員はアンケートへのフィードバックを行い、次年度の教育の向上・充実に向けて講義内容等の改善に努めている。</p> <p>【英語科】(1)で述べた学習成果のアセスメントは5つの到達目標のデータを収集し、英語科FDにて検証され、その後短期大学FDでディスカッションし、自己点検委員会を経て、教学マネジメント委員会で報告されている。</p> <p>【教務課】学科で学習成果検証報告書を作成、教学マネジメント委員会で審議し、次年度教育課程(開設科目)編成及びカリキュラム改善に活用した。</p> <p>(根拠) 【保育科】短大自己点検・評価・改善委員会議事録、学科会議議事録、短大・学科ワークショップ議事録 【英語科】英語科FD、短大FD、自己点検委員会、教育マネジメント委員会 【教務課】教学マネジメント委員会議事録</p>	<p>【保育科】 ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【保育科】 ①学習成果検証結果をもとに10月の科会にて次年度カリキュラムについて検討を行う。また、授業評価アンケートについて学生からの意見を報告し、学科全体の課題を共有する。また各教員は、担当科目に対するアンケートへのフィードバックを行う。 ②特になし</p> <p>【英語科】継続して行う。</p> <p>【教務課】 ①学科で学習成果検証報告書を作成、教学マネジメント委員会で審議し、次年度教育課程(開設科目)編成及びカリキュラム改善に活用した。</p> <p>(根拠) 【保育科】- 【英語科】英語科FD議事録 2020年9月7日</p>	<p>【保育科】 学習成果検証結果をもとに10月の科会にて次年度カリキュラムについて検討を行い、次年度科目名称の変更や廃止対象の科目を決定した。また、授業評価アンケートについて学生からの意見を報告し、学科全体の課題を共有した。今後も学科および各教員のフィードバックを通し教育の向上・充実に努める。</p> <p>【英語科】-</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>
<p>(4)学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。</p>	<p>【保育科】学習成果検証報告を受け、学科会議で検討された次年度カリキュラムの開設科目に対する新設・科目名称の変更・廃止等について教務委員会で審議し、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認しながら、法令に則って課程を編成している。</p> <p>【英語科】学校教育法第109条5項(令和2年4月1日)等により認証評価が明確に義務付けられたことをうけ、本学科においては、自己点検・評価にいつそう傾注し、法令を遵守している。</p> <p>(根拠) 【保育科】教学マネジメント委員会議事録、教務委員会議事録、学科会議議事録 【英語科】教学マネジメント委員会議事録</p>	<p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【保育科】 ①学習成果検証報告を受け、10月の学科会議で検討された次年度カリキュラムの開設科目に対する科目名称の新設・変更・廃止等について教務委員会で審議し、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認しながら、法令に則って課程を編成する。②特になし</p> <p>【英語科】 学校教育法第109条5項(令和2年4月1日)等により認証評価が明確に義務付けられたことをうけ、本学科においては、自己点検・評価にいつそう傾注し、法令を遵守している。 ②課題なし</p> <p>(根拠) 【英語科】英語科FD議事録 2020年9月7日</p>	<p>【保育科】 学習成果検証報告を受け、10月の学科会議で検討された次年度カリキュラムの開設科目に対する科目名称の変更・廃止等について教務委員会で審議し、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認しながら、法令に則って課程を編成した。</p> <p>【英語科】-</p>	

<p>基準Ⅰ 自己点検委員会 評価</p>	<p>建学の精神の確立については、全体的に評価できる。本学の教育目的を明確に示しており、私立学校法に基づいた公共性も有し、その内容は大学案内やHP等で学内外に示されている。定期的な確認作業や学内共有も行われており、これからも継続して行うことが期待される。高等教育機関として地域・社会に貢献しているかどうかについては、新型コロナウイルスの影響はあったものの、県内高校への出前講座、西原町との連携事業などは継続して実現できた。</p> <p>教育の効果に関する項目のうち、教育目的・目標の確立については、各学科とも建学の精神に基づき確率ができており、これを学内外に表明もできている。また各科の人材育成が地域社会の要請に答えているか否かについても定期的な点検がなされている。短期大学、および各学科における学習成果については、きちんと定められており、定期的な点検がなされ、学内外への公表も行われている。三つの方針の一体的な策定・実施・公表も行われている。</p> <p>自己点検・評価活動等の実施体制の確立と内部質保証への取り組みのうち、高等学校関係者からの意見聴取が実現できていないため、その方法についての検討が必要である。</p> <p>教育の質の保証については、アセスメント手法と実施に関するスケジュールが定められたことは評価できる。今後は手法の定期的な点検が十分にできるよう、確実な実施体制を積み重ねる必要があろう。</p>
---------------------------	--

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学習成果や卒業認定・学位授与の方針に基づく教育課程の編成と学習環境について明確に示す。卒業、学位授与、成績評価の方針が明確であり、就職や他の高等教育機関への編入などにつながる学習成果の獲得を保証していることを明確に示す。卒業認定・学位授与の方針が、社会的・国際的に通用性が保証されるものであることを明確に示す。学習を支援する環境(専門支援担当者の配置、図書館又は学習資源センター等での学生支援なども含む)を整え、学習成果の獲得を向上させていることを明確に示す。

短期大学は、学科又は専攻課程ごとに、建学の精神から成る教育目的・目標、学習成果及び三つの方針を学内外に明確に示し、その実践においては設定どおりの学習成果を獲得させなければならない。そのために、教育課程と学生支援は、学習成果の獲得に向けて、三つの方針に基づく質の高い教育プログラム、学生支援サービス及び他の学習資源の活用を促進しなければならない。学習成果の質を保証するためには、自ら掲げる教育目的・目標、教育課程及び教育プログラム並びに学習成果について点検・評価する査定(アセスメント)の手法を有し、学生が獲得した学習成果がそれらの結果として獲得されたものであることを証明しなければならない。

短期大学は、学科・専攻課程に係る専門の学芸を教授し、職業又は實際生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。学習成果には、単に教育課程の卒業要件の単位を充足することや資格を取得するという専門的なものだけでなく、幅広く深い教養及び総合的な判断力などの汎用的なものも含まれる。学生が獲得した学習成果を量的・質的データとして測定し、卒業認定・学位授与の方針を満たすものであることを証明することで教育の質保証を図らなければならない。学習成果の査定には、卒業生の進路先における評価の聴取など、卒業後評価への取り組みも含まれる。

<A 教育課程>

短期大学は、卒業認定・学位授与の方針を定めて、体系的な教育課程を編成しなければならない。その卒業認定・学位授与の方針は、卒業、学位授与、成績評価の方針が明確であり、就職や他の高等教育機関への編入につながる学習成果の獲得を保証し、社会的・国際的に通用性が保証されるものでなければならない。したがって、短期大学は、三つの方針を明確にし、それを基にして自己点検・評価を行い、質の向上・充実のための査定(アセスメント)を継続していかなければならない。短期大学は、学科・専攻課程に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養を培うよう配慮しなければならない。また、専門的及び汎用的な学習成果の獲得を基盤にした職業又は實際生活に必要な能力を育成するための職業教育を適切に行うことも求められる。教育の効果は、学生の学習成果の獲得状況を量的・質的データとして収集し、そのデータを分析・解釈して顕在化することで判定できる。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020 【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③ 【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等 の名称
基準Ⅱ-A-1 短期大学士の 卒業認定・学位 授与の方針 (ディプロマ・ポ リシー)を明確 に示している。	(1)学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。 ①学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。	【保育科】沖縄キリスト教短期大学の目的及び各学科の教育研究上の目的に基づき、学科会議にて卒業認定・学位授与の方針を検討し、2018年度第6回教学マネジメント委員会における審議の結果、承認を得、策定した。保育科DPIにおいては、2020年度第4回教学マネジメント委員会において一部変更した。 【英語科】卒業認定・学位授与の方針と学習成果のリンクを策定している。 (根拠)【保育科】Student Handbook, HP情報の公開、保育科学科会議議事録、教学マネジメント委員会議事録 【英語科】英語科FD、教学マネジメント、教授会、学生便覧	【保育科】 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針(DP)と学習成果との連動が明確になるよう修正する。 【英語科】(課題なし) ★継続して行う	【保育科】 ①2020年度、教育研究上の目的への連動がより明確になるよう学習成果に修正が加わった。それに伴いDPの修正も行われた。 ②- 【英語科】卒業認定・学位授与の方針はそれぞれの学習成果に対応している。②- (根拠)【保育科】保育科学科会議議事録、教学マネジメント委員会議事録	【保育科】- 【英語科】-	学科会議 教学マネジ メント委員会
	(2)学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定めている。	【保育科】卒業認定・学位授与の方針を定めている。 【英語科】卒業認定・学位授与の方針を定めている。①DP1建学の精神、DP2英語科の特色、DP3学力の3要素、DP4英語科の特色、DP5学則 【教マネ委員会】 沖縄キリスト教短期大学の目的及び各学科の教育研究上の目的に基づき、学科会議にて卒業認定・学位授与の方針を検討し、2018年度第6回教学マネジメント委員会における審議の結果、承認を得、策定した。 保育科DPIにおいては、2020年度第4回教学マネジメント委員会において一部変更した。 (根拠)【保育科】Student Handbook, HP情報の公開 【英語科】学生便覧 【教務】・教学マネジメント委員会議事録、 (参考)3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン(中央教育審議会)	【保育科】(課題なし) ★継続して行う 【英語科】(課題なし) ★継続して行う	【英・保】- 【教マネ】①保育科DPIにおいては、2020年度第4回教学マネジメント委員会において一部変更した。 (根拠)	-	教学マネジ メント委員会
	(3)学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。	【保育科】短期大学設置基準に準拠した教育課程を修了した者に卒業認定と学位授与が行われている。 【英語科】建学の精神、教育理念・目標にもとづき、学習成果及び卒業認定・学位授与の方針を明確に表明し、またその方針の下、学生が獲得すべき学習成果を具体化、かつ査定している。教育を客観的に見直し、公表していることによりDPIに関する社会的・国際的に適用性があると認識している。 (根拠) 【保・英】Student Handbook, HP情報の公開	【保育科】(課題なし) ★継続して行う 【英語科】(課題なし) ★継続して行う	【保育科】- 【英語科】建学の精神、教育理念・目標にもとづき、学習成果及び卒業認定・学位授与の方針を明確に表明し、またその方針の下、学生が獲得すべき学習成果を具体化し、かつ査定している。 (根拠)【英語科】シラバス、学習成果 【保育科】-	-	学科会議 教学マネジ メント委員会

	<p>(4) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。</p> <p>【保育科】定期的に学科会議やワークショップにおいてディプロマ・ポリシーを確認している。 ・短期大学の規定に照らし、2018年8月保育科ワークショップ、また2018年6月～2019年1月にかけて学科会議にて審議を重ね点検を行い、修正を行った。 ・2020年度、教育研究上の目的との運動がより明確になるよう10月～12月の学科会議において審議し、教学マネジメント委員会にて決定された。</p> <p>【英語科】①DPについては学科会議やFDでその内容について点検を行い、変更の必要がある場合は教学マネジメント委員会で審議し、適宜見直しを行っている。また、TOEICの点数の伸び率やGPAの推移等をもとに点検を行っている。</p> <p>(根拠)【保育科】科会議事録、学科ワークショップ議事録、教学マネジメント委員会議事録 【英語科】短大FD</p>	<p>【保育科】学科会議やワークショップにおいてディプロマ・ポリシーを確認・点検し、修正が必要かどうかを検討する。</p> <p>【英語科】(観光ビジネス群との整合性) ★英語群と観光ビジネス学群の専門領域と学習成果及び3つのポリシーの整合性について検証を行う必要がある。</p>	<p>【保育科】①学科会議でDPを確認・点検する。 ②学科会議において、学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針(DP)と学習成果との運動がより明確になるよう、修正する必要があると判断された。</p> <p>【英語科】2020年12月17日の英語科会議にて、3つのポリシーに関する観光ビジネス群と英語群の整合性について話し合い、DPの文言変更はなく、CPの文言のみ変更になった。</p> <p>(根拠) 【英語科】英語科会議事録 2020年12月17日、1月教学マネジメント委員会議事録</p>	<p>【保育科】学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針(DP)と学習成果との運動がより明確になるよう、学科会議で修正案を出し、教学マネジメント委員会において決定された。</p> <p>【英語科】-</p> <p>教学マネジメント委員会</p>
<p>基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を明確に示している。</p>	<p>(1) 学科・専攻課程の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。</p> <p>【保育科】DPとCPの対応は学科会議やFD等で定期的に確認し、教学マネジメント委員会へ報告している。</p> <p>【英語科】DPとCPの対応は英語科FDで定期的に確認し、教学マネジメントへ報告している。</p> <p>(根拠) 【保育科】科会議事録、学科ワークショップ議事録、Student Handbook、HP情報の公開 【英語科】学生便覧(対応表有)</p>	<p>【保育科】学科会議やワークショップにおいてカリキュラム・ポリシーを確認・点検し、修正が必要かどうかを検討する。</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【保育科】①学科会議でCPを確認・点検する。 ②学科会議において、CPとDPの対応がより明確になるよう、修正する必要があると判断された。</p> <p>【英語科】DPとCPは対応している。</p> <p>(根拠)</p>	<p>【保育科】CPとDPの対応がより明確になるよう、学科会議で修正案を出し、教学マネジメント委員会において決定された。</p> <p>【英語科】-</p> <p>教学マネジメント委員会</p>
	<p>(2) 学科・専攻課程の教育課程を、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。</p> <p>① 学科・専攻課程の学習成果に対応した、授業科目を編成している。</p> <p>② 単位の実質化を図り、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。</p> <p>③ 成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している</p> <p>④ シラバスに必要な項目(学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等)を明示している。</p> <p>⑤ 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業(添削等による指導を含む)、放送授業(添削等による指導を含む)、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。</p> <p>【英語科】・【保育科】 ① 短期大学設置基準第5条に基づき、学科の学習成果に対応した授業科目を編成している。また、各授業科目の学習を通して学生が学習成果を獲得できるよう、教育課程の体系化を図り、学生への周知として学生便覧等へカリキュラム・マップを掲載している。 ② 短期大学設置基準第13条の2に基づき、「沖繩キリスト教短期大学履修規程」第4条第3項において学期毎の履修可能な単位数は、原則として25単位を上限とし、単位の実質化を図るよう努めている。 ③ 成績評価は、学則第29条に基づき行っており、HPや2020年学生便覧P98で「成績評価」基準について示している。また、シラバスに評価方法や評価基準を示しており事前に学生へも周知している。 ④ シラバスの作成においては、教学マネジメント委員会で「シラバス作成ガイドライン」を策定し、記載事項及び留意点について周知し、作成の依頼を行っている。また、作成後は第三者チェックを実施し、シラバス内容の適切性を点検している。</p> <p>(根拠) 【保育科・英語科】 ①カリキュラムマップ、②沖繩キリスト教短期大学履修規程、③沖繩キリスト教短期大学履修規程、学生便覧、HP、④シラバス、2020年度シラバス作成ガイドライン、短期大学教員人事委員会規定、沖繩キリスト教学院教員資格審査基準、学科会議事録</p>	<p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし)</p>	<p>【保育科】-</p> <p>【英語科】-</p> <p>(根拠)</p>	<p>-</p> <p>教学マネジメント委員会</p>
	<p>(3) 学科・専攻課程の教員を、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。</p> <p>【保育科】学科で短大設置基準に則り、適切に教員の配置を行っている。</p> <p>【英語科】3つのポリシーと短期大学設置基準に則り、適切に採用・配置している。</p> <p>(根拠) 【保育科】①カリキュラムマップ②沖繩キリスト教短期大学履修規程③沖繩キリスト教短期大学履修規程、学生便覧、HP④シラバス、2020年度シラバス作成ガイドライン、短期大学教員人事委員会規定、沖繩キリスト教学院教員資格審査基準、学科会議事録 【英語科】短期大学教員人事委員会規程、沖繩キリスト教学院教員資格審査基準</p>	<p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>-</p> <p>(根拠)</p>	<p>-</p> <p>短期大学教員人事委員会</p>

	(4) 学科・専攻課程の教育課程の見直しを定期的に行っている。	<p>【保育科】学科ワークショップや学科会議において定期的に教育課程の見直しを行っている。2020年度新カリキュラム開始に合わせ、2018年度教育課程に大幅な変更を加えた。以降、2019年3月までカリキュラムツリー、カリキュラムマップの見直しを行っている。2019年度からは学習成果検証報告書を発行、検討をふまえたカリキュラム変更を行っている。2020年度10月～2月、教育研究上の目的との連動が明確になるよう、学習成果、三つの方針、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを一体的に修正を行っている。</p> <p>【英語科】5つのアクセスを用いて定期的に教育課程の検証を行い、教学マネジメント委員会で検討している。①満足度調査②授業評価アンケート③受講者数/閉講クラス④成績分布状況⑤TOEIC IPテスト。</p> <p>(根拠)【保育科】学科ワークショップ議事録、学科会議議事録、教学マネジメント委員会議事録 【英語科】英語科FD、短大FD、教学マネジメント委員会議事録</p>	<p>【保育科】2019年度学習成果検証結果をふまえ、開設科目新設・科目名変更・廃止の検討を行う。学習成果と三つの方針に沿ったカリキュラム・ツリーとカリキュラムマップの見直しを行う。</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う。</p>	<p>【保育科】2019年度学習成果検証結果をふまえ、次年度開設科目の検討を行った。また、2020年度10月～2月、教育研究上の目的との連動が明確になるよう、学習成果と三つの方針が修正された。それをふまえ、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを一体的に修正案を提出し、教学マネジメント委員会において修正された。</p> <p>【英語科】継続して行う。</p>	<p>【保育科】-</p> <p>【英語科】-</p>	<p>教学マネジメント委員会</p> <p>(根拠)【英語科】「2020アセスメント」2020年7月29日。教学マネジメント委員会議事録2020年度8月。</p>
基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。	(1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。	<p>教養教育運営委員会を置き、委員会の活動を通してその内容と実施の体制は確立している。</p> <p>(根拠) 教養教育運営委員会議事録</p>	<p>(課題なし) ★教養教育運営委員会の活動を通して、学科との連携をより緊密におこなう。</p>	-	-	<p>教養教育運営委員会</p>
	(2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。	<p>短期大学の学習成果では、専門教育の土台となる教養として位置づけ、関連を明確に示している(学習成果3)。また、英語科、保育科の卒業要件に教養教育を組み込んでいる。</p> <p>(根拠) 教養教育運営委員会議事録、学生便覧(短大学習成果・卒業に必要な要件)、第1回短大FDワークショップ報告書</p>	<p>課題: 学科プログラムとの統合を進める。 ★教養教育のDPを各学科のDPIに統合したり、各学科のDPIに統合したり、各学科のカリキュラムツリーに教養教育科目を組み入れることで関連性をさらに明確化する。★教養教育のDPとCPを廃止し、各学科の教育課程のアクセスメントにその要素を統合しなくてはならない。</p>	<p>課題: 学科プログラムとの統合を進める。 ★教養教育のDPを各学科のDPIに統合したり、各学科のカリキュラムツリーに教養教育科目を組み入れることで関連性をさらに明確化する。★教養教育のDPとCPを廃止し、各学科の教育課程のアクセスメントにその要素を統合しなくてはならない。</p>	-	<p>教養教育運営委員会</p>
	(3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。	<p>授業評価報告について教養教育委員会で議論するなど活発に取り組んでいる。</p> <p>(根拠) 教養教育運営委員会議事録、授業評価報告書(アセスメント)、修学ポートフォリオ達成度スコア、教授会議事録(検定合格者発表)</p>	<p>課題: 学習成果の把握と改善により力をいれる。 ★幼保英語、准学校心理士、日本語ワープロ、表計算に関する資格などを導入、実施する。</p>	<p>★幼保英検、日本語ワープロ、表計算等の検定試験の団体受験を今年2度(10月と2月頃)実施し、すでに多数の合格者がでている。 ★ジェネリクススキル等については、各科の修学ポートフォリオ達成度スコアに、教養教育の目指す社会人基礎力を養うという目標を反映させている。</p>	<p>★教養教育独自の学習成果を廃止したので、今後は各学科の学習成果に基づいて教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組まなくてはならない。 ★在学中、各種検定試験にチャレンジしてみるよう、学生に促す。 ★修学ポートフォリオについては、本格導入にむけて教務課と連携を密に取り組んでいく。</p>	<p>教養教育運営委員会</p>
基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は実生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。	(1) 学科・専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。	<p>【キャリア課】学科と連携して、キャリア教育の体系を整えている。</p> <p>【保育科】保育実習および教育実習を実施している。また、学科専任教員が教養教育委員およびキャリア支援委員として各部署と連携をとり、進路セミナーなどの職業教育を実施している。また、教養教育で社会人基礎力を高める内容を取り入れており、希望者は資格試験を受験することができる。</p> <p>【英語科】職業教育は進路セミナーや授業を通して、毎年実施している。キャリアレッスンは必修科目としており、2年次の全学生が受講している。また、インターンシップの科目を開設している。</p> <p>(根拠)【キャリア課】キャリア支援委員会規程、議事録 【保育科】学科会議事録、(教養教育委員会議事録、キャリア支援委員会議事録) 【英語科】キャリアガイダンス、キャリアレッスン、フレッシュマンセミナー、進路セミナー</p>	<p>【キャリア課】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【キャリア課】①英語科は「キャリアレッスン」のシラバス作成に関わり、キャリア課職員も3コマ、講師を担当した。保育科は「フレッシュマンセミナー」の1コマを予定していたが、コロナ禍で実行できず。②新年度は予定通り行う。</p> <p>【保育科】-</p> <p>【英語科】2020年度も継続して行えたが、インターンシップは、コロナウイルスの影響で行えなかった。</p> <p>(根拠) キャリア委員会議事録</p>	<p>【キャリア課】継続して行う</p> <p>【保育科】-</p> <p>【英語科】-</p>	<p>学科会議 キャリア支援委員会</p>

	(2)職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。	<p>【キャリア課】職業教育の効果について、測定・評価は、進路状況(就職率)において数値化している。英語科では、今年度から授業と連携し、キャリア教育を授業に取り入れたことで、就職希望率が上がっている。また、2020年度は、就職内定率は下がったが、就職内定者は前年比111人増138%アップとなり、就職する学生が増えた。保育科においては、保育園・幼稚園以外の企業への就職希望者が増え始めた。学生の多様化がみられ、キャリア支援課での指導も2年前期から個別面談を開始し対応している。キャリア支援委員会、教授会等において報告し情報共有している。</p> <p>【保育科】職業教育(進路セミナー)の実施を通してより徹底した職業教育の必要性が感じられたため、2020年度よりフレッシュマンセミナーでキャリア支援課と連携するコマを設定し、職業教育を強化している。また、保育実習及び教育実習の評価票データを学習成果検証の指標に用い、分析結果を次年度開設科目編成へ活かし、教育の改善に取り組んでいる。</p> <p>【英語科】①職業教育科目の授業評価アンケートや就職率の高い職業分野を分析し、シラバスの点検を行うなど改善につなげている。</p>	<p>【キャリア課】(課題なし) ★就職状況を経年比較することで、効果の測定や評価を共有し、改善に生かす取り組みを継続して行う。</p> <p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【キャリア課】①コロナ禍の影響で就職先が例年とは違ったため、教育の効果・測定は難しい。②コロナ禍にも対応できるよう早期就活のサポート、就職先の多様化を目指す。</p> <p>【保育科】-</p> <p>【英語科】継続して行う。</p>	<p>【キャリア課】動きの早い、おそい学生への個別面談の実施。</p> <p>【英・保】-</p>	<p>【キャリア課】キャリア支援委員会</p>
<p>基準Ⅱ-A-5 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を明確に示している。</p>	(1)入学者受入れの方針は学習成果に対応している。	<p>【入試課】2022年度大学案内と募集要項に掲載し、ホームページにも明確に示している。</p> <p>【保育科】学科会議やワークショップにおいてAPを確認・点検し、修正が必要かどうかを検討する。2020年度10月～12月、教育研究上の目的との連動がより明確になるよう、学習成果および三つの方針を一体的に修正・決定した。</p> <p>【英語科】入学者受入れの方針は、「AP1建学の精神、AP2国際的な貢献、AP3コミュニケーションにおける思考力、AP4学力の3要素を基礎にコミュニケーション能力を身につける」と定め、学習成果に対応している。</p>	<p>【入試課】課題:アドミッションポリシーを見直す必要があるならば、他のポリシーの検証も必要である。 ★学科と議論を重ねていく。</p> <p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【英語科】 ★国際観光ビジネス群との整合性を検証していく</p>	<p>【入試課】①文部科学省通知(大学入学者選抜実施要項)に基づいた「具体的な設定」が求められており、学科に働き、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを踏まえて学習成果に対応するようアドミッションポリシー改正を2020年に行った。②なし</p> <p>【保育科】①学科会議でAPを確認・点検する。②学科会議において、学習成果と三つのポリシーの対応がより明確になるように修正が必要であり、また、具体的な入学学習成果の把握・評価の提示が必要と判断された。</p> <p>【英語科】継続し検証を行う。</p>	<p>【入試課】継続して行う。</p> <p>【保育科】学習成果と三つのポリシーの対応がより明確になるよう、また、具体的な入学学習成果の把握・評価の提示となるよう学科会議でAPの修正案を出し、教学マネジメント委員会において決定された。</p> <p>【英語科】-</p>	<p>学科会議 入試委員会 教学マネジメント委員会</p>
	(2)学生募集要項に入学者受入れの方針を明確に示している。	<p>募集要項に明確に示している。</p>	<p>(課題なし) ★常に検証していく</p>	<p>①募集要項に明確に示している。 ②なし。</p>	<p>改正後のアドミッションポリシーを踏まえた入学者選考方法となるよう募集要項の作成を行い、明確に示す。</p>	<p>学科会議、 入試委員会</p>
<p>基準Ⅱ-A-5 入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。</p>	(3)入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。	<p>【入試課】両学科共に各入試選抜において調査書・成績の把握・評価を行っている。入学者受入れの方針は、入学時に問われる能力を定める内容として明確に示されている。</p> <p>【保育科】2020年度10月～12月、教育研究上の目的との連動がより明確になるよう、学習成果と三つの方針を一体的に修正・決定した。アドミッションポリシーはより具体的に、受験生が入学前に身につけておくことが望ましい力について説明を加えた。</p> <p>【英語科】アドミッションポリシーは学生便覧や学生募集要項に載せており、より具体的に、受験生が入学前に身につけておくことが望ましい力について説明を加えている。</p>	<p>【入試課】課題:より分かりやすい(具体的な)内容にするならば、検討する必要がある。 ★学科、教務課と共に議論を重ねていく。</p> <p>【保育科】具体的な入学前学習成果の把握・評価方法を検討する</p> <p>【英語科】継続して行う</p>	<p>【入試課】①2020年の改正時に「高等学校で履修すべき科目や取得しておくことが望ましい資格等」を明確に示した。②なし。</p> <p>【保育科】学習成果と三つのポリシーの対応がより明確になるよう、また、具体的な入学学習成果の把握・評価の提示となるよう学科会議でAPの修正案を出し、教学マネジメント委員会において決定された。</p> <p>【英語科】曖昧な文言を分かりやすい表現に変え、明確に伝えるよう工夫している。</p>	<p>【入試課】学習成果の把握・評価を2022年度入試で行う。</p> <p>【保育科】-</p> <p>【英語科】-</p>	<p>【入試課】学科、教学マネ、入試委員会</p>
		<p>(根拠) 【入試課】大学案内、募集要項 【保育科】HP情報の公開、Student Handbook、学生募集案内 【英語科】学生便覧、学生募集要項</p>		<p>(根拠) 【英語科】英語科会議議事録 2020年12月17日 【入試課】アドミッションポリシー(英語科、保育科)</p>		

<p>(4) 入学者選抜の方法(推薦、一般、AO選抜等)は、入学者受入れの方針に対応している。</p>	<p>【入試課】両学科共に入学者選抜の方法について出題や面接の内容にたえず改良を加え、入学者受入れの方針に対応させている。</p> <p>【保育科】入学者受入れの方針に対応した選抜方法となっている。</p> <p>【英語科】対応している。</p> <p>(根拠) 学生募集要項</p>	<p>【入試課】課題:受験生がしっかり理解できるよう常に点検をしなければならない。 ★3つのポリシーがしっかり運動しているか、教務課と連携を密にしていける。</p> <p>【保育科】(課題なし) ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【入試課】①3つのポリシーが運動するよう改定を行った。②なし。</p> <p>【英語科】継続して行う</p> <p>【保育科】-</p> <p>(根拠) アドミッションポリシー(英語科・保育科)</p>	<p>【入試課】入学者選抜の方法と整合性をとれているか検証し、齟齬があれば修正していく。</p> <p>【英・保】-</p>	<p>学科会議 入試委員会</p>
<p>(5) 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。</p>	<p>【入試課】文部科学省の通知を踏まえた新入試制度に対応するため、次のとおり多様な選抜方法を設け、実施した。総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜においてそれぞれの選考基準を設定し、公正かつ適正に実施している。</p> <p>【保育科】学力の3要素が測れるよう、定期的に入試方法について検討している。学力の3要素である知識・技能をはかるため、2020年度実施試験より面接に口頭試問を加え実施している。</p> <p>【英語科】多様な入試選抜において、それぞれの選考基準を設け、試験を実施している。</p> <p>(根拠) 【入試課】募集要項 【保育科】学生募集要項、学科会議議事録 【英語科】学生募集要項</p>	<p>【入試課】課題:各入試選抜において、さらに具体的な選考方法を検討しなければならない。 ★継続して取り組む</p> <p>【保育科】 ★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【入試課】①文部科学省の通知を踏まえた新入試制度に対応するため、選抜の名称や選考方法を変更し、公正かつ適正に実施した。 ②学力の3要素を適切に把握するため、選考基準について毎年度検証し、見なおす必要がある。</p> <p>【保育科】- 【英語科】各入試選抜において、選考基準を設け、試験を実施している。</p> <p>(根拠) 【入試課】募集要項、ルーブリック 【英語科】夏の英語科FD議事録2020年9月8日、英語科会議議事録 2020年8月27日、英語科会議議事録 2020年11月19日、英語科議事録 2021年1月21日 入試委員会議事録</p>	<p>【入試課】継続して行う。</p> <p>【英・保】-</p>	<p>学科会議 入試委員会</p>
<p>(6) 授業料、その他入学に必要な経費を明示している。</p>	<p>授業料等、必要な経費は、大学案内、募集要項、入学手続要項、ホームページに明示している。</p> <p>(根拠) 大学案内、募集要項等</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>①必要な経費を明示している。 ②なし。</p> <p>(根拠) 募集要項</p>	<p>継続して行う。</p>	<p>入試委員会</p>
<p>(7) アドミッション・オフィス等を整備している。</p>	<p>入試課において入試関連業務をすべて行っており、アドミッション・オフィスとして機能している。現時点で入試業務に支障はきたしていない。</p> <p>(根拠) 組織図</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>①入試課がアドミッション・オフィスとして機能している。 ②なし。</p> <p>(根拠)</p>	<p>継続して行う。</p>	<p>入試委員会</p>
<p>(8) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。</p>	<p>募集要項、ホームページに詳細を掲載しており、電話やメールでの問い合わせがあった際も適切に対応している。</p> <p>(根拠) 募集要項や大学案内に問い合わせ先を明記</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>①入試課職員全員が回答できるよう、適切に対応している。②なし。</p> <p>(根拠)</p>	<p>継続して行う。</p>	<p>入試委員会</p>
<p>(9) 入学者受入れの方針を高等学校関係者の意見も聴取して定期的な点検している。</p>	<p>2020年度にアドミッション・ポリシーを改正した。受験生が理解しやすいよう高等学校関係者の意見を聴取して定期的な点検を行う。</p> <p>(根拠)</p>	<p>★各高校との信頼関係を築きながら前向きに検討する。 入試説明会や訪問の際にアンケートやヒヤリングを行うなどして対応にあたることとしたい。</p>	<p>①文部科学省の通知を踏まえた学力の3要素の評価・判定、また高等学校で履修すべき科目等を明示するため、アドミッション・ポリシーの改正を行った。改正にあたっては、高校訪問での入試説明や意見交換で出たことを参考にした。 ②受験生が理解できるよう工夫するため、定期的な点検が必要である。</p>	<p>継続して行う。</p>	<p>入試委員会</p>
<p>基準Ⅱ-A-6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。</p>	<p>【英語科・保育科】 学習成果は各科目に紐づけられ、カリキュラムマップに示されており、その科目の到達目標には「学生が～できる、～が身につく」と明記している。また、学習成果を検証をした学習成果検証報告書の作成を行っている。</p> <p>(根拠) 【保育科】HP、Student Handbook、学生募集案内、シラバス 【英語科】カリキュラムマップ(学生便覧)</p>	<p>【保育科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【英語科】学習成果検証報告書の作成し、具体性に関して検討を行う</p>	<p>【保育科】- 【英語科】継続して行う</p> <p>(根拠)</p>	<p>【英・保】-</p>	<p>学科会議 教学マネジメント委員会</p>

	(2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。	<p>【英語科・保育科】2年間で学習成果を獲得できるように科目が編成されている。評価基準はルーブリックにて明確にしている。達成状況を確認しながら、達成出来ていない学生には再試験等に対応し、2年間の学びの中で学習成果を獲得できる内容としている。</p> <p>(根拠) 【保育科】HP、Student Handbook、学生募集案内、シラバス 【英語科】シラバス</p>	<p>【保育科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし)★継続して行う</p>	<p>【保育科】- 【英語科】カリキュラムマップやカリキュラムツリーに学習成果がリンクされている。</p> <p>(根拠)</p>	【英・保】-	学科会議 教学マネジメント委員会
	(3) 学習成果は測定可能である。	<p>【保育科】毎年、次の5つの査定方法を用いて検証を実施、測定する。Ⅰ. 短大満足度調査(カリキュラムの適切性に関する満足度・学習成果達成度・GPA分布)、Ⅱ. 科目別過去3年間の受講生数推移、Ⅲ. 授業評価アンケート×授業評価、Ⅳ. 成績分布状況データ、Ⅴ. 実習評価票をもとにした外部評価と学生の自己評価票の分析。</p> <p>【英語科】5つのアセスメントを用いて学習成果の検証を行っている。 ①満足度調査、②授業評価アンケート、③受講者数/閉講クラス、④成績分布状況、⑤TOEIC IPテスト。</p> <p>(根拠) 【保育科】学習成果検証報告書 【英語科】ルーブリックで成績を評価している</p>	<p>【保育科】 ★2019年度学習成果検証から、外部評価を導入予定である。</p> <p>【英語科】(課題なし) ★継続して行う</p>	<p>【保育科】2019年度学習成果検証より次の4つの指標(Ⅰ. 短大満足度調査、Ⅱ. 科目別過去3年間の受講生数推移、Ⅲ. 授業評価アンケート×授業評価、Ⅳ. 成績分布状況データ)に加え、Ⅴ. 実習評価票をもとにした外部評価と学生の自己評価の分析を指標に加え、検証を行った。</p> <p>【英語科】継続して行う。</p> <p>(根拠) 【英語科】「2020アセスメント」2020.7.29. 【保育科】学習成果検証報告書</p>	【英・保】-	-
基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。	(1) GPA分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積(ポートフォリオ)を用いて測定する仕組みをもっている。	<p>【保育科】次の5つの査定方法を用いて学習成果検証を実施している。Ⅰ. 2019年度短大満足度調査(カリキュラムの適切性に関する満足度・学習成果達成度・GPA分布)、Ⅱ. 科目別過去3年間の受講生数推移、Ⅲ. 2019年度授業評価アンケート×授業評価、Ⅳ. 成績分布状況データ、Ⅴ. 実習評価票をもとにした外部評価と学生の自己評価票の分析。</p> <p>【英語科】毎年、TOEICの得点データを活用して、カリキュラムの分析をし、取得単位数やGPA分布図をつかってカリキュラムのアセスメントを回している。</p> <p>(根拠)【英語科】英語科議事録、英語科FD。 【保育科】学科会議議事録</p>	<p>【保育科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【教マネ】②課題: 修学ポートフォリオ導入</p>	<p>【保育科】- 【英語科】TOEICの得点データを活用して、カリキュラムの分析をし、取得単位数やGPA分布図をつかってカリキュラムのアセスメントを回している。</p> <p>【教マネ】学習成果の可視化、及び学生の学習成果向上を目的とした修学ポートフォリオの全学導入(2022年度)に向け、2021年度は導入準備及び試行期間とする。 【2021年度教学マネジメント事業計画(2)「修学ポートフォリオ導入準備」より】</p> <p>(根拠)【英語科】「2020アセスメント」2020年7月29日。夏の英語科FD議事録 2020年9月8日。</p>	【英・保】-	
	(2) 学生調査や学生による自己評価、同窓生・雇用者への調査、インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。	<p>【保育科】次の5つの査定方法を用いて学習成果検証を実施している。Ⅰ. 短大満足度調査(カリキュラムの適切性に関する満足度・学習成果達成度・GPA分布)、Ⅱ. 科目別過去3年間の受講生数推移、Ⅲ. 授業評価アンケート×授業評価、Ⅳ. 成績分布状況データ、Ⅴ. 実習評価票をもとにした外部評価と学生の自己評価の分析。</p> <p>【英語科】学生満足度調査、編入学率、就職率、卒業率、留學率などを英語科FDや短大FDで活用している。</p> <p>(根拠)【英語科】英語科FDや短大FD 【保育科】学習成果検証報告書</p>	<p>【保育科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし)★継続して行う</p>	<p>【保育科】- 【英語科】卒業率や就職率を活用して、開設科目と学生ニーズの関連性を分析している。</p> <p>(根拠)【英語科】「2020アセスメント」2020年7月29日。夏の英語科FD議事録 2020年9月8日。</p>	【英・保】-	
	(3) 学習成果を量的・質的データに基づき評価し、公表している。	<p>【保育科】IRと連携し、次の5つの査定方法を用いて量的・質的データに基づき分析・評価し、検証結果を公表している。Ⅰ. 短大満足度調査(カリキュラムの適切性に関する満足度・学習成果達成度・GPA分布)、Ⅱ. 科目別過去3年間の受講生数推移、Ⅲ. 授業評価アンケート×授業評価、Ⅳ. 成績分布状況データ、Ⅴ. 実習評価票をもとにした外部評価と学生の自己評価票の分析。</p> <p>【英語科】GPA分布や資格取得率等に加え、卒業時の学生満足度調査にて学習成果の達成度の自己評価を答えてもらい、結果を公表している。</p> <p>(根拠)学生満足度調査 【保育科】学習成果検証報告書 【英語科】授業成績、TOEICスコア、学生満足度調査</p>	<p>【保育科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【英語科】(課題なし)★継続して行う</p>	<p>【保育科】- 【英語科】継続して行う</p>	【英・保】-	

基準Ⅱ-A-8 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。	(1)卒業生の進路先からの評価を聴取している。	3年に1回、企業・事業所アンケートを実施している。次回のアンケートは2021年夏に実施予定。	課題：送付組織数に前年度就職先組織数以上に送付する必要がある。 ★DPを踏まえた設問を追加し、検証結果は学科会議に提供しているが、改善課題がないか2020年度からキャリア支援委員会で、検討を開始する。また、次回アンケートは2021年に実施予定。	①本年度は実施せず②2021年度行う	夏休み前に企業(保育所)を選定しアンケートを送付予定	キャリア支援委員会
	(2)聴取した結果を学習成果の点検に活用している。	【英語科・保育科】キャリア課が3年に1回実施しているアンケートの活用が出来ていない。	【英語科・保育科】課題：キャリア支援課と連携し、アンケートの実施と分析、活用について検討が必要。	【英語科・保育科】キャリア支援課と連携し、アンケートの実施と分析、活用について検討する。	【保育科】キャリア支援課と連携し、アンケートの実施と分析、活用について検討していない。次年度検討が必要である。 【英語科】キャリア支援課との連携を強化し、データを活用する。	
		(根拠)キャリア支援委員会規程、議事録		(根拠)キャリア支援委員会議事録		
		(根拠)【英語科】英語科FD、短大FD		(根拠)		

<B 学生支援>

短期大学は、積極的に資源配分を整備して学生の学習支援を図り、成績評価基準等に従って学習成果の獲得状況を評価し、学習成果の獲得が向上するように教育方法、教育課程及び教育プログラムの見直しを行わなければならない。

短期大学は、建学の精神と教育目的・目標に基づいて、多様な学生を募集し、その入学を許可し、教育課程に基づき学習成果を獲得させなければならない。学生支援は、学生のニーズを的確にとらえ、それに対応した学習支援の環境を整えることである。短期大学は、学生の学習を支援するために図書館や学習資源センター等に専門性が高く、種類が豊富な資料を用意するとともに、学生支援のための専門的職員を配置することが望ましい。短期大学は、学生生活支援のための組織や支援体制を整備しなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020 【Plan】	②2020Planに対する【Do, Check】	③ 【Act】	(必須) 検討する委員会等の名称
			()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	改善へ向けての取り組み	
基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	(1)教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。 ①教員は、シラバスに示した成績評価基準により学習成果の獲得状況を評価している。 ②教員は、学習成果の獲得状況を適切に把握している。 ③教員は、学生による授業評価を定期的に受けて、授業改善に活用している。 ④教員は、授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。 ⑤教員は、教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。 ⑥教員は、学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。	英語科及び保育科の教員は、次の教育資源を有効に活用し、学修成果獲得に向けて責任を果たしている。 ①各授業科目の成績については、シラバスにおいて示す評価基準およびルーブリックに基づいて学習成果の獲得状況を評価している。 ②学習成果の獲得状況について、満足度調査、授業改善アンケート、成績分布状況、外部アセスメント等の分析データを基に学習成果を検証している。 ③授業評価アンケートを半期毎に実施し、学生からの指摘・要望に対するフィードバックコメントを出し、授業改善に努めている。また、アンケートの結果を踏まえてティーチャングアワードが決定され、受賞した教員による授業参観を実施し、授業改善に活用している。 ④学期開始前、必要時には学期中、学期終了後にも非常勤教員も含めたミーティングを行い、授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。 ⑤学生満足度調査で学習成果達成の自己評価をはかる項目を設けており、その結果をHPに掲載し、教員は達成状況の把握・評価を行っている。 ⑥オフィスアワーやアドバイザー制度を用いて学生に適切に指導を行っている。	【保育科】(課題なし)★継続して行う 【英語科】(課題なし)★継続して行う	【英・保】-	【英・保】-	
		(根拠) 【保育科】学習成果検証報告書、シラバス、成績分布、GPA分布、授業評価アンケート、ルーブリック、学科会議議事録、非常勤講師とのFD研修会議事録 【英語科】①成績評価ルーブリック ②教学マネジメント ③授業評価アンケートフィードバック ④専任・非常勤講師のFD(3月と9月) ⑤TOEICテストの結果分析 ⑥履修オリエンテーション(3月と9月)、オフィスアワー一覧表		(根拠)		

<p>(2)事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。</p> <p>①事務職員は、所属部署の職務を通じて学習成果を認識して、学習成果の獲得に貢献している。</p> <p>②事務職員は、所属部署の職務を通じて教育目的・目標の達成状況を把握している。</p> <p>③事務職員は、所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援を行っている。</p> <p>④事務職員は、学生の成績記録を規程に基づき適切に保管している。</p>	<p>【教務課】(2020)</p> <p>【①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成及びカリキュラム改善に活用する「学習成果検証報告書」作成や、作業スケジュール調整に関して、教務課と各学科が連携し、学習成果獲得に向け取り組んでいる。 ・教務課を中心に、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を定め、査定方法及び調査等について明確にした「アセスメント実施スケジュール」を教学マネジメント委員会において作成した。 ・ディプロマ・ポリシーを達成するための「到達目標(英語科12項目、保育科11項目)」を定義し、個々の科目との関係性を定めた「(新)カリキュラム・マップ」を作成し、2021年度に向け本学ホームページ及び学生便覧で公表する予定。 <p>【②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業評価アンケート」実施。 (注)企画推進課「卒業時アンケート(学習成果に関する自己評価)」実施 また、修学ポートフォリオ導入に向け、「到達目標」及び「達成度スコア」を設定した。 <p>【③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3・9月の履修オリエンテーションや履修科目登録時に、教務課職員が学生向け履修指導を行い、最終年次に対しては卒業仮判定を実施している。 <p>【④】</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期大学学則第45条第5項に基づき1～37期の成績原簿は紙及びPDFで保存している。 38期～現在の成績原簿は、教務システムにて管理しているが、PDF保存・保管の為の作業中である。 <p>(根拠)</p> <p>【教務】【①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果検証報告書、2020年度アセスメント実施スケジュール(学習成果検証) ・「カリキュラム・マップ」 ・「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」 ・「アセスメント実施スケジュール」 <p>【②】授業評価アンケート、卒業時アンケート</p> <p>【③】履修登録ガイド、ルーブリック利用ガイド、卒業仮判定資料</p> <p>【④】沖縄キリスト教短期大学学則第45条第5項、1～37期の学業成績表はPDF保存、38期～現在は教務システム管理のみ</p>	<p>【教務】課題:①取り組みが不十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★カリキュラム・コーディネーター(教務課職員)を中心に、確実な学習成果獲得への取り組みを検討していく。 ②学習成果の可視化(直接評価、間接評価による到達目標達成度等)に係る取り組みが不十分である。 ★教務システムとして「修学ポートフォリオ」導入を検討している。 ③(課題なし)★継続して行う ④38期～現在の成績原簿は教務システムにて管理しているが、PDF保存・保管も検討中 ★38期以降の成績原簿は教務システム管理のみの為、別保管としてPDF保存調整中 	<p>【教務】【①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育課程編成及びカリキュラム改善に活用する「学習成果検証報告書」作成や、作業スケジュール調整に関して、教務課と各学科が連携し、学習成果獲得に向け取り組んでいる。 ・教務課を中心に、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を定め、査定方法及び調査等について明確にした「アセスメント実施スケジュール」を教学マネジメント委員会において作成した。 ・ディプロマ・ポリシーに定めた力を「到達目標(英語科12項目、保育科11項目)」に分け再定義し、個々の科目との関係性を定めた「(新)カリキュラム・マップ」を作成し、2021年度に向け本学ホームページ及び学生便覧で公表する予定。 ②取り組みが不十分である。 <p>【②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「授業評価アンケート」実施。 また、修学ポートフォリオ導入に向け、「到達目標」及び「達成度スコア」を設定した。 ②修学ポートフォリオ導入準備途中。 <p>【③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①3・9月の履修オリエンテーションや履修科目登録時に、教務課職員が学生向け履修指導を行い、最終年次に対しては卒業仮判定を実施している。 ②(課題なし) <p>【④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①短期大学学則第45条第5項に基づき1～37期の成績原簿は紙及びPDFで保存している。 ②38期～現在の成績原簿は、教務システムにて管理しているが、PDF保存・保管の為の作業中である。 <p>(根拠)【教務課】</p> <p>【①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果検証報告書、2020年度アセスメント実施スケジュール(学習成果検証) ・「カリキュラム・マップ」 ・「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」 ・「アセスメント実施スケジュール」 <p>【②】授業評価アンケート、卒業時アンケート</p> <p>【③】履修登録ガイド、ルーブリック利用ガイド、卒業仮判定資料</p> <p>【④】沖縄キリスト教短期大学学則第45条第5項、1～37期の学業成績表はPDF保存、38期～現在は教務システム管理のみ</p>	<p>【教務】</p> <p>【①】カリキュラム・ポリシーに基づき、学科と教務課(カリキュラム・コーディネーター他)が協力し、体系的な教育プログラムの再構築を行なう。</p> <p>【2021年度教学マネジメント事業計画(3)「体系的な教育プログラムの再構築」より】</p> <p>【②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習成果の可視化、及び学生の学業成果向上を目的とした修学ポートフォリオの全学導入(2022年度)に向け、2021年度は導入準備及び試行期間とする。 【2021年度教学マネジメント事業計画(2)「修学ポートフォリオ導入準備」より】 <p>【③】</p> <ul style="list-style-type: none"> (課題なし) ★継続して行う <p>【④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ②38期～現在の成績原簿は、教務システムにて管理しているが、PDF保存・保管の為の作業を引き続き行う。 	<p>教務委員会、短大教授会、教学マネジメント委員会</p>
<p>(3)教職員は、学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。</p> <p>①図書館又は学習資源センター等の専門的職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。</p> <p>②教職員は、学生の図書館又は学習資源センター等の利便性を向上させている。</p> <p>③教職員は、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。</p> <p>④教職員は、学生による学内LAN及びコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。</p> <p>⑤教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。</p>	<p>【学支セ】(2020記述)①学習支援センターには専任の教職員が兼務している。</p> <p>②必要に応じ学習支援センター運営委員会を開催している。</p> <p>【学支課】③PC教室(計90台)にCALLシステムを導入し、語学教育、及びICT教育に活用している。</p> <p>また、グループウェアソフトを使って、教職員間における情報共有、及び会議等でのペーパーレス化を促進している。</p> <p>④学生の持ち込みPCを活用できるよう、無線LAN環境を提供している。また、いつでも、どこでも講義資料の受け取りや課題提出等ができるように授業支援システム「iLAS」を導入している。</p> <p>⑤年1回、ICT教育研究会を実施している。</p> <p>【図書課】①図書館ツアーや文献検索セミナー等を実施している。</p> <p>【総務課】③職員一人一台のパソコンを配置し大学運営に活用している。</p> <p>(根拠)</p> <p>【学支セ】①②学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ</p> <p>【学支課】③④各システム概要、ネットワーク構成図、⑤実施報告書</p> <p>【図書課】図書委員会議事録、教授会議事録、大学運営協議会議事録、課長会議事録</p>	<p>【学支セ】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【学支課】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【図書課】課題:年度ごと学生の実態を踏まえてイベントを見直す。★今後も学科や他部署と連携して、アクティブラーニングの質向上に継続的に努める。</p> <p>【総務】(課題リモート授業での対応)★リモート授業の継続のためノートPCやiPadを活用する。</p>	<p>【学支セ】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【学支課】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【図書課】今年度はコロナ感染防止のため、毎年実施していた保育科実習前の「絵本読み聞かせ講座」等のイベントが見送られた。但し、他部署や学科と連携した資格本等の展示は館内ロビーにて実施し、学習向上の一助となるよう工夫を凝らした。</p> <p>【総務】新型コロナウイルス感染症対策のため、学生の満足度を上げるリモート授業のためのノートPCやiPadを活用</p> <p>【学支セ】①②学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ</p> <p>【学支課】③④各システム概要、ネットワーク構成図</p>	<p>【学支セ】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【学支課】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【図書課】★継続して行う。</p> <p>【図書課】図書委員会教授会大学運営協議会課長会</p>	<p>【学支セ】①②学習支援センター運営委員会</p> <p>③④⑤情報システム委員会</p> <p>【図書課】図書委員会教授会大学運営協議会課長会</p>

基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的にしている。	(1) 入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。	学科と連携し、入学手続き者へ、入学前のスクリーニング(Bridge Program)、課題の案内を行っている。併せて出身高校への進路指導部宛にも情報を提供している。	課題: 欠席者への対応について、どのように周知徹底するのかなど。 ★課題について学科と連携を図る必要がある。	① 入学手続き者に対し入学前教育の資料や課題を送付し、情報を提供している。欠席者について学科事務と学科が協力し、都度電話やメールにて対応している。 ② なし。	継続して行う。	学科会議
	(根拠) 各学科の案内文			入学手続き要項、入学前教育の案内文		
(2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。	【学生課】毎年4月に実施 【保育科・英語科】毎年入学予定者オリエンテーションを実施している。		【学生課】(課題なし)★継続して行う 【保育科】(課題なし)★継続して行う	【学生課】2020年度は、コロナウイルス感染拡大により実施できなかった。 【保・英】-	【学生課】コロナウイルスの状況によるが、実施に向けて準備していく。 【保・英】-	【学生課】学生生活委員会
	(根拠) 【学生課】「新入生オリエンテーション」資料 【保育科】入学予定者オリエンテーション資料 【英語科】入学予定者オリエンテーション		【英語科】(課題なし)★継続して行う	(根拠)	【保・英】-	
(3) 学習成果の獲得に向けて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。	【保育科】履修オリエンテーション、新入学予定者オリエンテーション、新入学予定者短大オリエンテーション、アドバイザーによる履修指導および登録確認を行っている。 【英語科】新入生に対しては第3回Bridge Programにおいて、また在学生に対しては履修オリエンテーションでガイダンスを行っている。また、2020年度は教務課と協働で、段階的履修科目を示した「キリ短パスポート(No.1~3)」を新規作成した。2021年度より在学生の履修指導や学びの促進に活用する。		【保育科】(課題なし)★継続して行う 【英語科】(課題なし)★継続して行う	【保育科】- ① 2020年度フレッシュマンセミナーにて、カリキュラムとDPの関連性の説明、グローバル時代に欠かせないツールとしての英語の必要性を伝えている。また教務課と共に段階的履修科目を示した「キリ短パスポート(No.1~3)」を新規作成した。2021年度より在学生の履修指導や学びの促進に活用する。 ② 「キリ学パスポート」の内容充実	【保育科】- 【英語科】 【英語・教務】 今後も「キリ短パスポート」の内容充実を図る。	
	(根拠) 【保育科】履修オリエンテーション資料、新入学予定者オリエンテーション資料、新入学予定者短大オリエンテーション資料、アドバイザーによる履修登録確認資料、修学ポートフォリオ記録 【英語科】Bridge Program資料 【教マネ】キリ短パスポート			(根拠) 【英語科】フレッシュマンセミナーの資料、キリ短パスポート		
(4) 学習成果の獲得に向けて、学生便覧等、学習支援のための印刷物(ウェブサイトを含む)を発行している。	① 毎年「学生便覧」を発行 (根拠) 「学生便覧」		【学生課】(課題なし)★継続して行う	-	-	学生生活委員会
				(根拠)		
(5) 学習成果の獲得に向けて、基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。	【学支セ】(2020記述) 学習支援センターでは、教員や学生チューターが利用者のニーズに合わせた指導・助言を行っている他、授業とも連動して学生の支援を行っている。		【学支セ】(課題なし)★継続して行う	【学支セ】★コロナ禍により利用者数が激減する一方、ワークスタディ制度の廃止によるチュータリングシフト制の見直しが必要となっている。	【学支セ】★オンライン学習指導を可能にする等の対策につき、運営委員会において議論する。	【学支セ】学習支援センター運営委員会
	(根拠) 【学支セ】学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ			(根拠)		
(6) 学習成果の獲得に向けて、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。	【保育科】アドバイザー制度、学生修学ポートフォリオ面談記録、学科会議での情報共有、オフィスアワーの活用 【英語科】アドバイザー制度やオフィスアワーの整備を行っているほか、学内カウンセラーも配置している 【学支セ】学習支援センターでは、教員や学生チューターが利用者のニーズに合わせた指導・助言を行っている。		【保育科】(課題なし)★継続して行う 【英語科】(課題なし)★継続して行う 【学支セ】(課題なし)★継続して行う	【保育科】- 【英語科】学会会議でも情報を共有している。継続して行う。 【学支セ】(課題なし)★継続して行う	【英・保】- 【学支セ】-	【支援セ】学習支援センター運営委員会
	(根拠) 【保育科】アドバイザー制度、学生修学ポートフォリオ、学科会議議事録 【学支セ】学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ 【英語科】アドバイザー制度、学内カウンセラー			(根拠) 【英語科】学科会議議事録		
(7) 学習成果の獲得に向けて、通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。	(該当しない)					
			(根拠)			

<p>(8) 学習成果の獲得に向けて、進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。</p>	<p>【保育科】音楽クラスでは進度の早い学生に対して対応。</p> <p>【英語科】グレードの高い授業を履修できるようにしている。また4年大学での授業を科目等履修生度を活用して履修できるようになっている。</p> <p>【学支セ】学習支援センターでは、英語科の成績優秀な学生や保育科のピアノが上手な学生をチューターとして採用している。</p> <p>【企画】現状英語系のクラスもレベル別でクラス分けされており、進度の早い学生や優秀な学生は上級クラスを受講できるようになっている。また、英検対策講座も設けており、意欲のある学生に対して積極的な支援を行っている。保育科でもピアノのクラスで上級者向けにピアノⅢという科目を設置している。</p> <p>(根拠)</p> <p>【保育科】音楽クラス資料、ActiveAcademy修学ポートフォリオ、学習支援センター利用状況 【学支セ】学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ 【英語科】沖縄キリスト教短期大学科目等履修生に関する細則</p>	<p>【保育科】課題:他科目も含め総合的に学生状況を把握し、学習支援センターとのより一層の連携が必要。日誌やレポート作成に苦慮する学生のための支援が必要。 ★学習支援センターとの連携強化</p> <p>【英語科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>【学支セ】(課題なし)★継続して行う</p>	<p>【保育科】他科目も含め総合的に学生状況を把握し、学習支援センターと連携を強化する。</p> <p>【英語科】同様。継続して行う。</p> <p>【学支セ】★エクセル表計算(コンピュータリテラシーとの連携)については、情報処理検定合格者からチューターを採用したい。小論文指導については、センター員(短大教員)の協力確保に努める。</p> <p>(根拠)</p>	<p>【保育科】他科目も含め総合的に学生状況を把握し、対応することができない。次年度、学習支援センターとの連携を含め、進度の速い学生に対してどのように対応できるかを考える。</p> <p>【英語科】表計算、小論文等のスキルアップに対応できるチューターを採用できないか検討する。</p> <p>【学支セ】運営委員会において対策を検討している。</p>	<p>学習支援センター運営委員会</p>
<p>(9) 必要に応じて学習成果の獲得に向けて、留学生の受入れ及び留学生の派遣(長期・短期)を行っている。</p>	<p>2020年度留学生の受入れ及び派遣状況は以下のとおりである。</p> <p>■1、留学生の受入れ:外国人留学生の在籍者数0人 ■2、留学生の派遣(長期):2020年度在学留学奨学生3人 新型コロナウイルスの影響による辞退者がありつつも、2020年度前期は3人の学生を在学留学生として派遣し、無事帰国した。2020年度後期は新型コロナ禍の状況が収束を見せないため、募集を中止した。 ■3、留学生の派遣(短期):ハワイ研修0人、海外幼児教育研修0人、台湾研修0人 今年度は新型コロナ禍の影響により、すべての海外研修の実施を中止した。</p> <p><根拠></p> <p>■1、留学生の受入れ:HP情報の公表 ■2、留学生の派遣(長期):在学留学特別奨学生一覧 ■3、留学生の派遣(短期):海外研修(ハワイ/台湾)参加者リスト</p>	<p><前年度からの課題></p> <p>■1、留学生の受入れ:外国人留学生の在籍がない状況は本学にとって大きな課題のひとつである。 ■2、留学生の派遣(長期):なし、継続して実施する。 ■3、留学生の派遣(短期):今年度より、必須の授業を設け、事前学習体制を強化したが、当該授業を履修できない学生がいるなど、不十分な点があった。</p> <p><改善に向けての取組></p> <p>★1、外国人留学生の受入れ:委員会を中心に引き続き全学的に検討し、学内の受け入れ体制の整備について検討を要する。 ★2、留学生の派遣(短期):事前学習体制を更に充実させる。</p>	<p><①「★Plan」の実施状況></p> <p>★1、外国人留学生の受入れ:海外協定校の交換留学生の受入れについてグローバル化推進委員会にて検証を開始した。 ★2、留学生の派遣(短期):ハワイ研修について、事前学習を含め、より質の高いプログラムとすべく、参加を希望する短大生は、応募時点で英検2級を取得していることを新たに条件として加えることとなった。</p> <p><②課題></p> <p>★1、外国人留学生の受入れ:海外協定校の交換留学生受入れに係る議論は継続中だが、外国人留学生の全体的な受入れ体制についての検討には至っていない。 ★2、留学生の派遣(短期):ハワイ研修以外の研修についても、参加条件について検証を要する。</p> <p><根拠>★1、外国人留学生の受入れ:「2020年年度第1回グローバル化推進委員会議事録」「稟議書:長栄大学交換留学生受け入れ/宿舎の整備について(伺い)」 ★2、留学生の派遣(短期):「2020年年度第1回国際平和文化交流委員会議事録」</p>	<p><改善に向けての取り組み></p> <p>★1、外国人留学生の受入れ:本学外国人留学生受入れの体制を見直し、外国人留学生の確保を目指す。 ★2、留学生の派遣(短期):ハワイ研修のみならず、海外幼児教育研修やCJCU研修(台湾研修から改称)についても、より質の高い内容とすべく、改善に向け検証する。加えて海外研修参加学生に対する補助(奨励金等)についても検討する。</p>	<p>グローバル化推進委員会、国際平和文化交流委員会</p>
<p>(10) 学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方法を点検している。</p>	<p>【保育科】成績や単位取得率の悪い学生に対してアドバイザーの教員や実習担当教員が個別指導を行っている。音楽Ⅰ・Ⅱには再履修クラスを設けている。また、学習支援センターと連携し、ピアノの支援を行っている。しかし、その方策については点検が行われていない。</p> <p>【英語科】毎年成績配布時に各教員がアドバイザーグループの学生毎に個別面談を行い、GPAや成績取得状況に応じた指導を行っている。また、学習支援センターやキャリア支援課が主催している資格取得に関する講座も活用している。</p> <p>(根拠)</p>	<p>【保育科】今後定期的に支援方法について検討する必要がある。情報を学科FD等で共有し、支援方法の点検・改善につなげる。</p> <p>【英語科】(現状の支援方法に対する点検が行えていない)★個別面談にて対応が必要な学生の情報を学科FD等で共有し、支援方法の点検・改善につなげる。</p> <p>(根拠)</p>	<p>【保育科】定期的に支援方法について検討する。情報を学科FD等で共有し、支援方法の点検・改善につなげる。</p> <p>【英語科】学習支援をしているが、その支援方法を点検できていない。具体的な支援方法を構築する必要がある。</p> <p>(根拠)</p>	<p>【保育科】定期的に支援方法について検討できていない。次年度支援方法について検討し、また情報を学科FD等で共有し、支援方法の点検・改善につなげる。</p> <p>【英語科】具体的な支援方法を構築する必要がある。</p>	

基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的にやっている。	(1) 学生の生活支援のための教職員の組織(学生指導、厚生補導等)を整備している。	学生課が担当窓口となり、学生の生活支援を行っている。	課題: 学生を取り巻くリスクが増えてきており、その予防策、対処を日々学ぶ必要がある ★情報、知識をアップデートする研修や勉強会を検討する	2020年度は、コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたことで、コロナに対する知識を得ることになった。課題としては、日々変わる状況に対して知識のアップデートが追いつかない状況にある。	不慣れた状況下でも、できることをしっかり実施できるよう臨機応変に対応していく。	学生生活委員会
	(根拠)「学生便覧」					
	(2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。	学生課が担当窓口となり、学生会、サークルと連動して活動できる支援体制を整えている。	(課題なし)★よりサークル活動が活性化するように定期的なミーティングを行いたい	2020年度は、ほとんどのサークルが活動休止になったが、本学の活動基準レベルに沿って許可申請を提出し、学生部長の許可が得られれば活動が可能とした。	コロナの中、様々な制限が設けられているが、学生の意思を少しでも尊重できるように支えていく。	学生生活委員会
	(根拠)「学生便覧」					
	(3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。	小規模の短期大学であるが、コーヒールウンジの設置や自動販売機の設置増など学生のキャンパス・アメニティに配慮している。	課題: 学生満足度を高めるためにもキャンパスアメニティの充実に取り組みむべく検討している。	①新型コロナウイルスの影響により食堂等委託業者の撤退があった。食事等の代替サービスとしてキッチンカーを導入し、自動販売機設置を増やすなどに対応した。撤退後のスペースは学生が自由に使えるPRACTICE STUDIOとして開放した。 また、今後の計画として、リニューアル委員会を設置し、学生・教職員の意見を聴取した上で大規模修繕計画を策定した。 ②アメニティの充実及び大規模修繕	学生ユニオンリニューアル委員会において、学食、購買の改修事業に着手する。	法人事務連絡会議、大学運営協議会
	(根拠)キャンパスマップ					
	(4) 宿舎が必要な学生に支援(学生寮、宿舎のあっせん等)を行っている。	宿舎が必要な学生には随時紹介している。また、入学前の問い合わせに対し、斡旋業者を紹介したり、物件情報を事前に検索し情報の提供もしている。	(課題なし)★継続して行う	入学前の問い合わせに対し、斡旋業者を紹介したり、物件情報を事前に検索し情報を提供している。	業者から提供された情報は常に更新をかけ、いつでも提供できるよう努めている。	学生生活委員会
	(根拠)「学生便覧」					
(5) 通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)を図っている。	駐輪場・駐車場約560台分のスペースを設置している。	課題: ピーク時には不足するのが課題である。 ★学生へ公共交通機関の利用や乗り合わせを要請する。	①第1駐車場の整地ライン引きを実施。②4限終了時の渋滞が課題。	4限終了時の渋滞緩和に向け検討する。		
(根拠)キャンパスマップ						
(6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。	本学独自の「奨学金」を前後期に給付している。学内奨学金以外には、2020年度より国の修学支援やコロナによる学生支援緊急給付金など外部の奨学金が増え、案内や説明会を行った。多くの学生が奨学生の対象になった。	(課題なし)★継続して行う	学内奨学金以外には、2020年度より国の修学支援やコロナによる学生支援緊急給付金など外部の奨学金が増え、案内や説明会を行った。多くの学生が奨学生の対象になつた。	学生課からだけの周知だけではなく、教員から口頭だけでも周知してもらえよう連携していく。	学生生活委員会	
(根拠)「奨学金授与者一覧」(表)			申請資料等			
(7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。	「学生相談室案内」を全学生に配布している。保健室に保健師の資格を有する専門職員1名を配置し、また学内カウンセラーも2名配置して学生の相談に対応できる体制を整えている。	(課題なし)★継続して行う	カウンセリングの時間が週2日/90分と限定されているので、タイムリーに相談ができないという課題があるが、学内・学外カウンセラーが相談時間を柔軟に変更したり、メールでの相談を受け付けるなど対応している。	時間やスケジュールに制約はあるが、柔軟な対応により相談体制は整っている。しかし、カウンセラーの負担も大きくなることから、常駐スタッフの配置について事務局と調整をしていきたい。	学生生活委員会	
(根拠)「学生相談室案内」(文書)、学生相談室規程						
(8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。	【学生課、企画推進課】①実施している(学生生活実態調査、学生満足度調査)	課題: 回収率の増加 ★授業内で実施することを検討する	企画推進課と連携し、経済的支援に関する事や意見・要望の自由記述の項目を設けたアンケートを実施。早期に現状を把握することができた。	関係部署・課と情報交換を行い、連携していく。	【学生課】学生生活委員会 【企画推進課】FD委員会	
(根拠)HP内学生生活実態調査報告書、学生満足度調査報告書			(根拠)アンケート調査及び集計結果			

<p>(9) 留学生が在籍する場合、留学生の学習(日本語教育等)及び生活を支援する体制を整えている。</p>	<p>■1、外国人留学生の受入れ(学習):外国人留学生の学習(日本語教育等)については、科目「日本語音声表現Ⅰ・Ⅱ」があるが、現在、外国人留学生の在籍はないため、開講していない。 ■2、外国人留学生の受入れ(生活支援):外国人留学生の生活を支援する体制については入学に備え、従来の体制で整えている。</p> <p><根拠> ■1、外国人留学生の学習:学生便覧(短大) ■2、外国人留学生の生活を支援する体制:HP情報の公表</p>	<p><前年度からの課題> ■外国人留学生の受入れ:外国人留学生の在籍がない状況は本学にとって大きな課題のひとつである。 <改善に向けての取組> ★外国人留学生の受入れ:外国人留学生の受入れについて、委員会を中心に引き続き全学的に検討する。</p>	<p><①「★Plan」の実施状況> ★外国人留学生の受入れ:海外協定校の交換留学生の受入れを想定し、グローバル化推進委員会にて審議を開始した。受入中の教育プログラムの構築や、宿泊施設の確保を中心として、継続した検討を進めている。 <②課題> ★外国人留学生の受入れ:交換留学生については、教育プログラムの内容や人員の整備、宿泊施設に係る予算の確保が当面の課題である。また、その他外国人留学生対象の教育プログラムや宿舎についても同様の検討が必要である。</p> <p><根拠> ★外国人留学生の受入れ:「2020年年度第1回グローバル化推進委員会議事録」「裏議書:長栄大学交換留学生受け入れ:宿舎の整備について(伺い)」</p>	<p><改善に向けての取り組み> ★外国人留学生の受入れ:外国人留学生の受入れ体制再構築を目指し、まずは海外協定校の交換留学生受け入れ実現に向けた環境を整える。</p>	<p>グローバル化推進委員会、国際平和文化交流委員会</p>
<p>(10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。</p>	<p>学習支援の面で、一般学生と同様に学習支援センターの利用を進めている。また、教職員が困ったことは無いが、声掛けをするなどのサポートを行っている。</p> <p>(根拠)</p>	<p>課題なし</p>	<p>社会人学生へも一般学生と同様に学習支援センターの活用を進めている。また、教職員が困ったことは無いが、声掛けをする等のサポートを行っている。</p>	<p>-</p>	<p>【学生課】学生生活委員会</p>
<p>(11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。</p>	<p>学内施設はバリアフリーとなっているほか、車いす学生に対しては履修科目の教室を配慮するなどできるだけ負担を軽減させるようにしている。また学生課には支援員も配置しており、教職員が一丸となってサポート体制を整えている。</p> <p>(根拠)「障がい学生支援規程」</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>学内施設はある程度バリアフリーに整えている。支援については、授業支援に学生有償ボランティアを配置し、生活支援は職員が分担して行っている。</p> <p>(根拠)</p>	<p>配慮・気になる学生が増加していく状況になりつつあるため、常駐のスタッフの配置が必要である。事務局と調整していきたい。</p>	<p>学生生活委員会</p>
<p>(12) 長期履修生を受入れる体制を整えている。</p>	<p>沖縄キリスト教短期大学長期履修生規程を整備している。</p> <p>(根拠)①沖縄キリスト教短期大学長期履修生規程</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>①2020年度該当者なし</p> <p>(根拠)</p>	<p>-</p>	<p>教務委員会、短大教授会</p>
<p>(13) 学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)に対して積極的に評価している。</p>	<p>【保育科】「保育ボランティア体験」「地域子育て支援実習」で地域貢献活動をカリキュラムに取り入れ、単位として認定し、活動を評価している。 【英語科】ボランティア科目があり、優秀な学生は表彰している。</p> <p>(根拠)【保育科】本学HP、Student Handbook、シラバス 【英語科】シラバス</p>	<p>【保育科】(課題なし)★継続して行う 【英語科】(課題なし)★継続して行う</p> <p>(根拠)</p>	<p>【保育科】- 【英語科】ボランティアとしての単位を付与することで、大学側からの評価としている。</p> <p>(根拠)</p>	<p>【英・保】-</p>	<p></p>
<p>基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。</p> <p>(1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。</p>	<p>キャリア支援委員会を設置している。 【企画】就職支援を担当するキャリア支援課にはキャリアコンサルタント資格を保持している職員が常駐して、学生対応にあたっている。</p> <p>(根拠)キャリア支援委員会規程、議事録</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>①設置している②2020年度はコロナ禍のため不規則開催となったため、21年度は毎月開催を目指す。</p> <p>(根拠)キャリア支援委員会規程、議事録</p>	<p>コロナ感染状況を鑑みながら毎月開催を目標とする</p>	<p>キャリア支援委員会</p>
<p>(2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。</p>	<p>キャリア支援課が模擬面接練習室を設置し、就活にとどまらないキャリア教育を支援しているほか、求人票が閲覧しやすいように就職情報コーナーを設けている。その他図書館にも就職資格関連コーナーを設けて学生を支援している。</p> <p>(根拠)キャリア支援委員会議事録、学生便覧</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>①模擬面接練習室は面接指導や企業とのリモート面接に利用。②特になし。継続して行う。</p> <p>(根拠)キャリア支援委員会議事録、学生便覧</p>	<p>継続する。</p>	<p>キャリア支援委員会</p>
<p>(3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。</p>	<p>キャリア支援委員会を設置している。 また、英語技能検定や公務員・SPI試験対策講座などを毎年実施している。また、個別での面接対応も随時行っている他、琉球大学の学生をボランティア講師として招いた数学基礎講座(Scafe)を予定していたが、コロナ禍のため2020年度は実施できなかった。</p> <p>(根拠)キャリア支援委員会議事録、資格取得奨励金給付規程</p>	<p>(課題なし)★継続して行う</p>	<p>①英語技能検定や公務員・SPI試験対策講座などを実施した。また、個別での面接対応も随時行っている。ただしコロナ禍のため琉球大学の学生をボランティア講師として招いた数学基礎講座(Scafe)は開催できなかった</p> <p>(根拠)資格取得奨励金給付規程</p>	<p>継続する。</p>	<p>キャリア支援委員会</p>

<p>(4) 学科・専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。</p>	<p>①就職内定状況を参考にしながら就職支援に活用している。特に、保育科の就職先の業種別では、保育士、幼稚園教諭に内定する率が、74.4%(64人)、23.2%(20人)、合わせると97.6%に上り資格免許に関連した専門職に就職している。また、英語科では、コロナ禍の影響で例年とは違い、ホテル・観光業に偏らず幅広く多種多様な職種に就職している。</p> <p>(根拠)HP就職状況、進路状況・産業別進路状況報告</p>	<p>課題:就職状況の分析が不十分。 ★卒業時の進路(就職率)状況データの経年比較分析を行い、効果の測定ができたか2020年度からキャリア支援員会で検討を開始する。</p>	<p>①就職先はコロナ禍の影響で例年とは異なり分析するには至らず②21年度もコロナ禍の影響は免れないため、幅広く就職先情報を提供する。</p> <p>(根拠)HP就職状況、進路状況・産業別進路状況報告</p>	<p>過去の実績にとらわれない就職先支援を行う。</p>	<p>キャリア支援委員会</p>
<p>(5) 進学、留学に対する支援を行っている。</p>	<p>【学生課】(進学)進学資料コーナーを設置し、常時学生が閲覧できるようにしているほか、進学を希望している学生に対して窓口での相談も受け付けている。新入生オリエンテーションや進路セミナーなどで説明、案内している。</p> <p>【交流セ】(留学)留学に対する支援:経済的な側面では、「正規留学派遣奨学金」「在学留学特別奨学金」といった留学奨学金制度を整備している。また、就職・進学など、将来を見据えた留学プラン構築を目的として、留学カウンセリングや、留学に係る説明会等学内イベントを定期的実施し、学生が「意義ある留学」を実現できるよう、指導・助言を行っている。</p> <p>(根拠) 【学生課】「学生便覧」、「新入生オリエンテーション」時の説明資料 【交流セ】留学に対する支援:HP情報の公表</p>	<p>【学生課】(進学)課題なし 【交流セ】(留学) (前年からの課題) ■1、修業年限と留学の時期について:修業年限(2年)の関係で、四年制大学の学生よりも、海外留学の機会が限られている傾向にある。 <(新規)今年度の課題> ■2:(新規)留学奨学金制度について:本学の留学奨学金制度は「留学することが目的」となっている傾向にあり、本学の関与しない私設語学学校への在学留学が可能であり、留学の学習成果が不明瞭である。また、学生の多様な学習計画に対応するため制度が複雑化している。<改善に向けての取組>★1、修業年限と留学の時期について:海外研修について積極的に案内する。また、学内外問わず国際交流の機会を提供し、短大生が参加しやすい環境を整える。 ★2、(新規)留学奨学金制度について:正規留学・在学留学の制度・規程を再精査し、改正すべき点について検証し、全学的に取り上げる。</p>	<p>【学生課】(進学)編入学の説明は、進路セミナーで案内を行い、窓口で相談の場を設けている。約20名の学生が窓口へ相談に来た。その内、14名が本学四大や他大学へ進学することになった。</p> <p>【交流セ】(留学) <①「★Plan」の実施状況> ★1、修業年限と留学の時期について:2020年度前期に3名の学生が「在学留学奨学金」を獲得し、うち2名は協定校の長栄大学(台湾)へ交換留学生として派遣され、充実した留学生活を過ごした。この学生2名は昨年度(2019年度)台湾研修の参加者であり、海外研修から長期留学へと段階的な海外学習体験を経ており、短大修業年限内に学内海外派遣制度を最大限に活用したモデルケースであるといえる。 ★2、(新規)留学奨学金制度について:各学科でも検討し、取りまとめの上、グローバル推進委員会にて審議予定である。 <②課題>★1、修業年限と留学の時期について:課題なし、継続して行う。 ★2、(新規)留学奨学金制度について:特になし。継続して見直しを進める。</p> <p><根拠> 【学生課】相談記録、編入学試験 受験・合否一覧表 【交流セ】★1、修業年限と留学の時期について:「2019年度台湾研修参加学生リスト」「2020年度在学留学奨学金名簿」 ★2、(新規)留学奨学金制度について:「2020年度第2回グローバル推進委員会議事録」</p>	<p>【学生課】(進学)改善については特にないため、引き続き継続していい。</p> <p>【交流】(留学) ★2(新規)留学奨学金制度について:本学の留学奨学金制度(正規留学派遣奨学金・在学留学特別奨学金)を見直し、現状に即した体制として刷新する。</p>	<p>【学生課】学生生活委員会 【交流セ】国際平和文化交流委員会</p>

基準Ⅱ
自己点検委員会 評価

「教育課程」と「学生支援」において、以下、とくに一定の動きがあったものと改善をむけての努力が必要な項目に絞って記す。
まず、教育課程から3つのポリシーについてまとめると、とくに保育科において教育研究上の目的や学習成果との関連性から、DP(基準Ⅱ-A-1(4))、CP(基準Ⅱ-A-2(4))、AP(基準Ⅱ-A-5(1))を見直している一方、英語科ではCPとAPの文言に修正を加えるにとどめている。また、今年度は教養教育のための「教育研究上の目的」、「学習成果」、CPを廃止し、「教育目標、教育方針、構成・実施の方針」として再編しており、今後ともカリキュラムツリー及びカリキュラムマップから教養教育と専門教育の関連性がより明確になるよう努めたい。APIについては、入試説明会や高校訪問におけるアンケートやヒヤリングを通して、今後も受験生や進路指導の現場に伝わりやすい情報提供に徹したい(基準Ⅱ-A-5(9))。
学科・専攻課程において学習成果をより明確に検証するため、「短大満足度調査」、「科目別過去3年間の受講生数推移」「授業評価アンケート」、「成績分布状況データ」に加え、保育科においては「実習評価票」、英語科においては「TOEIC=IPテスト結果」を参照した(基準Ⅱ-A-6)。いっぽうで学生の卒業後評価への取り組みについては、「企業・事業所アンケート」を実施しているものの、3年に1度であるため、両学科においてアンケート結果の活用が困難な状況が続いている(基準Ⅱ-A-8)。ちなみに、今回の実施は来年2021年夏の予定である。
次に「学生支援」についてであるが、新たな動きとしてあげたいのが「修学ポートフォリオ」の導入である。導入にあたっては、明確にした「アセスメント実施スケジュール」を教学マネジメント委員会において作成し、ディプロマ・ポリシーを達成するための「到達目標」(英語科12項目、保育科11項目)を定義し、個々の科目との関係性を定めた「(新)カリキュラムマップ」を作成——。全学導入(2022年度)に向け、2021年度は導入準備及び試行期間としている(基準Ⅱ-B-1)。
コロナ禍によって留學生派遣事業(長期短期)がほぼ軒並み中止に追い込まれる中で、奨励金等による改善に向けて進む一方(基準Ⅱ-B-2(9))、留学奨学金制度についても、本学の留学奨学金制度を見直し、現状に即した体制作りに取り組んでいる(基準Ⅱ-B4(5))。また、学習支援センターでは利用者が激減しており、チュータリングのシフト制の見直しと、オンライン学習指導導入へ向けて議論が始まる一方、学科との連携を深めることで支援の方法を点検・改善すべきであるという声が上がっている(基準Ⅱ-B-2(8))。
学生の組織的な生活支援にあたっては、コロナ禍によって食堂等委託事業の撤退があったが、代替サービスとしていち早くキッチンカーを導入する一方、リニューアル委員会の下でキャンパスアメニティ大規模修繕計画が本格的に始動している(基準Ⅱ-B-3(3))。
以上、今年度は新型コロナウイルス対策に追われ、2019年度からの課題に加えて新たな問題が噴出した年であったが、その一方で、修学ポートフォリオや大規模修繕計画などの取り組みが始まったことを最後に特筆しておきたい。

基準Ⅲ. 教育資源と財的資源

教育目標を達成するために教育資源(人的資源、物的資源、技術的資源)及び財的資源を効果的に活用していることを明確に示す。教育資源と財的資源の自己点検・評価を実施し、短期大学の向上・充実のための計画など点検結果について明確に示す。短期大学は、経営指標に基づく実態を把握し、財務上の安定を確保するように経営計画を策定し、管理していることを明確に示す。

短期大学は、教育資源(人的資源、物的資源、技術的資源)と財的資源を有効的に活用して、教育の効果を高めなければならない。
 短期大学の経営においては、理事長や学長の姿勢や責任体制が重要であることは当然であるが、教職員においても使命感を持って職務を全うしなければ、教育の効果を高めることはできない。優秀な教職員を確保し、人材育成を図りながら、安定的に運営することが重要である。それゆえ、短期大学の構成員は人的資源ととらえるべきである。健全な経営を推進するためには、経営者と教職員の協力体制とともに人的資源の資質向上が不可欠である。施設設備に関して短期大学が最も取り組むべきことは、安全性の確保である。法令等に規定される通常の施設設備はもとより、非常時の学生の安全の確保や、情報伝達的手段に重点を置いた物的資源や技術的資源の整備が重要である。短期大学の財的資源には、学生生徒等納付金、公的補助金、寄付金、事業収益、資産運用収益、その他の外部資金の受入れなどがある。財的資源は、目的事業たる教育研究の遂行のために使用されるものであり、支出に当たっては、所定の手続きと意思決定機関による決定が必要である。短期大学は、教育資源と財的資源の有効な活用に加えて、学校教育法や私立学校法、中央教育審議会の答申等を踏まえた項目や、大学教育に関係する諸団体の客観的・数量的指標等を参考に自ら経営分析し、経営の健全化を図るために教育研究の活性化や経営改善への取り組みを自己点検・評価に取り入れなければならない。

<A 人的資源>

短期大学は、有能な教職員(人的資源)を雇用して、学習成果を獲得するための教育課程及び教育プログラムを構築し、教育の実践においては量的・質的データを基に学習成果を分析・評価し、恒常的かつ系統的な自己点検・評価を行うとともに、三つの方針を見直し整備することが求められる。教職員は、学習成果に照らした教育実践のために、PDCAサイクルによって、自ら日常的に点検・評価し、改善し、専門的人材として、たゆまぬ研鑽を積み重ねなければならない。そのために、短期大学は、組織的なFD・SD活動を推進し、時代の変化に対応できるように教職員の資質、教育能力、専門的能力の向上を図らなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020 【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③ 【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等の 名称
基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。	(1) 短期大学及び学科・専攻課程の教員組織を編制している。	【企画】教員組織に関しては短期大学設置基準協会第20条に則り編成している。 【総務】①短期大学及び学科ごとに教員組織を編制している。 (根拠)HP情報の公表	【企画・総務】(課題なし) ★継続して行う	(根拠)		-
	(2) 短期大学及び学科・専攻課程の専任教員は短期大学設置基準に定める教員数を充足している。	【企画】教員数に関しては短期大学設置基準第22条を満たしている旨HPで公表している。 【総務】短期大学設置基準を満たしている。 (根拠)HP情報の公表	【企画・総務】(課題なし) ★継続して行う	(根拠)		-
	(3) 専任教員の職位は真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を充足しており、それを公表している。	本学で定めた採用基準、昇任基準に則って職位を定めている。また、毎年、HPの「教員一覧」内において研究実績等を更新して公表している。 (根拠)HP教員一覧、沖縄キリスト教院教員資格審査基準	(課題なし) ★継続して行う	(根拠)		-
	(4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員と非常勤教員(兼任・兼任)を配置している。	【保育科・英語科】教育課程編成・実施の方針に基づいた教員を配置している。 (根拠)【保育科】学科会議議事録	【保育科・英語科】 ★継続して行う	-	-	-
	(5) 非常勤教員の採用は、学位、研究業績、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を遵守している。	【総務】短期大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者を採用している。 【英語科】短期大学設置基準の規定を遵守し、採用候補者の履歴書や研究業績、その他経歴等を学科会議で確認、検討し、教務委員会、教授会を経て、理事長による決済手続きを行っている。 【保育科】採用候補者の履歴書や研究業績、その他経歴等を学科会議で確認、検討し、教務委員会、教授会を経て、理事長による決済手続きを行っている。 (根拠)採用稟議書	【英語科】 ★継続して行う	【英語科】短期大学設置基準23条から第26条を遵守し、採用候補者の履歴書や研究業績、その他経歴等を学科会議で確認、検討し、教務委員会、教授会を経て、理事長による決済手続きを行っている。 【保育科】-	-	-
	(6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて補助教員等を配置している。	【保育科】保育科科目の「子どもの食と栄養」内調理実習時に補助教員を配置している。 【英語科】2020年度、英語科には補助教員は配置していない。 (根拠) 【保育科】学科会議議事録、教務委員会議事録、非常勤教員一覧	★方針に基づいて継続して行う	-	-	-
	(7) 教員の採用、昇任はその就業規則、選考規程等に基づいて行っている。	教員の採用、昇任はその就業規則、選考規程等に基づいて行っている。 (根拠)教員採用に関する手順、教員資格審査基準に関する内規	★継続して行う	(根拠)		短大教員人事委員会、理事会

基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	(1) 専任教員の研究活動(論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他)は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。	学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員は各々の専門領域の学会に所属し研究活動の充実に努めており、各教員の研究業績については、本学ホームページの教員紹介に掲載し、外部への公開がなされている。 また、2020年度研究報告書より様式を変更し、教育課程編成・実施の方針に基づいた研究成果が明確になっている。	★研究計画書及び研究報告書の様式の見直しを行う	2021年2月大学運営協議会にて研究計画書及び研究報告書の様式変更が承認された。学科の教育課程編成実施の方針に基づいた研究計画、報告がなされることとなる。	継続して行う		
		(根拠) 沖縄キリスト教学院HP、教育職員の個人研究費に関する規程、紀要		(根拠) 2021年2月大学運営協議会議事録、研究計画書、研究報告書			
	(2) 専任教員個々人の研究活動の状況を公開している。	本学HP内に教員一覧ページを設け、それぞれの教員の研究活動状況を毎年更新している。また、3年に1度実施している研究業績報告書を2021年に作成する。		★継続して行う	継続して実施	3年に1度実施している研究業績報告書の作成を行う	企画推進課
		(根拠) 沖縄キリスト教学院HP			(根拠)		
	(3) 専任教員は、科学研究費補助金、外部研究費等を獲得している。	2016年、2017年、2018年、2020年と公益信託宇流麻学術研究助成基金を獲得しており、また科研費においても研究分担者として外部資金を獲得している。		(課題: 科研費の研究代表者としての外部資金獲得) ★教授会で担当事務職員から科研費の案内を行い、資料を配布するなどして応募を促している	今年度科研費においては研究分担者として1件、また公益信託宇流麻学術研究助成基金も1件獲得している。ただし、今年度も科研費への申請はなく、引き続き説明会やメール等での情報提供を行い、応募を促す。	科研費の説明会やメール等での情報提供を積極的に行い、応募件数増加につなげる。	
		(根拠) 沖縄キリスト教学院HP、各種採用決定通知書			(根拠)		
	(4) 専任教員の研究活動に関する規程を整備している。	【企画】本学における競争的資金を中心とした公募型の研究資金の取扱いについて、適正な運営・管理および不正防止に関する基本方針を定めている。 【総務】専任教員の研究活動に関する規程を整備している。		(課題: 規程の見直し) ★研究活動に関する規程の改正	①研究活動に関する規程の見直しに向けて取組みを始めたが改正までには至らなかった。②規程の見直し(継続)	(継続)ガイドラインに基づく、研究に関する諸規程の改正を行う。	大学運営協議会
		(根拠) 教育職員の個人研究費に関する規程、学校法人沖縄キリスト教学院公的研究費の適正な運営・管理及び不正行為への対応等に関する規程、沖縄キリスト教学院研究倫理規程			(根拠)		
	(5) 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みを定期的に行っている。	研究倫理に関する規程の中に「公的研究費の運営・管理に関わる全ての構成員は、原則3年ごとに実施される研究倫理教育を受講しなければならない。」としており、教職員はeラーニングでの受講を行っている。企画推進課で教員の受講管理を行っており、未実施の教員には直接連絡し、受講を促している。		★継続して行う	継続して実施	継続して行う	短大教授会
		(根拠) 沖縄キリスト教学院HP、学校法人沖縄キリスト教学院公的研究費の適正な運営・管理及び不正行為への対応等に関する規程、沖縄キリスト教学院研究倫理規程			(根拠)		
(6) 専任教員の研究成果を発表する機会(研究紀要の発行等)を確保している。	編集委員会を組織し、年に1、2回紀要を出版している。		(課題: 研究活動の活性化に取り組む) ★紀要や論集の量と質の向上に向けて今後も努力する。	-	保育科論集の研究業績上の扱いについて、人事委員会、運営協議会等で議論を行う。	紀要編集委員会	
	(根拠) キリスト教短期大学紀要、沖縄キリスト教短期大学保育科論集			(根拠)			
(7) 専任教員が研究を行う研究室を整備している。	各教員に研究室を割り当てている。				経年劣化に伴った研究室内の環境を整える。		
	(根拠)			(根拠)			
(8) 専任教員の研究、研修等を行う時間を確保している。	専任教員の1週間に担当する授業責任時間数を14時間(7コマ)と規定し、週に1度授業を担当しない研究日を設けるなど、研究、研修等を行う時間を確保している。		★継続して行う				
	(根拠) 教育職員の勤務に関する規程			(根拠)			
(9) 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。	専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。		★継続して行う				
	(根拠) 沖縄キリスト教学院研究員規程、学校法人沖縄キリスト教学院専任教職員の学位・学術研究等による休職に関する規程、旅費・交通費規程			(根拠)			
(10) FD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。 ①教員は、FD活動を通して授業・教育方法の改善を行っている。	ティーチング・アワードの選定や授業参観、また学生FDの実施で学生の声に耳を傾けるなどあらゆる形で授業・教育方法の改善に向けて取組んでいる。		★継続して行う	2020年度も授業評価アンケートの結果などを参考にFD委員会内で各学科のティーチングアワード受賞教員を選出。受賞教員の授業を撮影し、学内ポータルサイトで全専任教員へ共有した。	継続して行う	FD委員会	
	(根拠) FD委員会規程、FD委員会議事録			(根拠) 2020年度第2回FD委員会議事録			

	(11)専任教員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう学内の関係部署と連携している。	【保育科】学習成果検証を各部署と連携している。検証をもとに次年度開設科目編成について学科で検討し、教務委員会、教学マネジメント委員会を経て教授会で決定している。また授業評価アンケートでは、IRが収集した結果を各教員が確認し、フィードバックを行い、学生の学習成果の獲得の向上に努めている。 【英語科】学習支援センターと文法の授業で連携している。また、授業についていけない学生に対しても学習支援センターでサポートしてもらっている。また、教育課程編成及びカリキュラム改善に活用する「学習成果検証報告書」作成や、教務委員会及び教学マネジメント委員会における協議及び審議の際に、教務課と連携している。	(課題:各学科、教務課、IRが共通の課題について合同で検討する委員会がない。) ★2019～2020年度にアンケート見直しワーキンググループを立ち上げ、各学科、教務課、IRで適切な調査内容等になるよう検討する。 【保育科】継続して行う	【英語科】学習支援課ではIoT教育を、学習センターではチュータリングを行った。 【保育科】-	-	教務委員会、 教学マネジメント委員会
		(根拠) 【保育科】学習成果検証報告書、HP情報の公開、フィードバックの学内掲示 【英語科】教授会報告(学習支援センターとの協力報告が件数あり)		(根拠)		
基準Ⅲ-A-3 学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。	(1)事務組織の責任体制が明確である。	組織規程及び事務分掌規程に基づき事務組織の運営がなされており、責任体制が明確である。	★継続して行う	-	-	-
		(根拠)組織規程、事務分掌規程		(根拠)		
	(2)事務職員は、事務をつかさどる専門的な職能を有している。	事務職員は採用時に人事委員会との面接を行っている他、一般教養などの筆記試験を実施し、職能を有していることを確認している。さらに、配置された部署において必要なスキルを身につけるため外部研修等へ派遣している。	★継続して行う	-	-	-
		(根拠)		(根拠)		
	(3)事務職員の能力や適性を十分に発揮できる環境を整えている。	人事委員会の決定により事務職員の能力や適性を考慮し、配置している。年に1度事務局長によりヒアリングを実施しており、能力を発揮できる環境を整えている。	★継続して行う	-	-	-
		(根拠)		(根拠)		
	(4)事務関係諸規程を整備している。	事務関係諸規程を整備している。	★継続して行う	-	-	-
		(根拠)組織規程、事務分掌規程		(根拠)		
(5)事務部署に事務室、情報機器、備品等を整備している。	各個人にパソコン・机等を配置し、事務部署に事務室、情報機器、備品等を整備している。	★継続して行う	-	-	-	
	(根拠)		(根拠)			
(6)防災対策、情報セキュリティ対策を講じている。	【学支課】年1回、SDの一環として情報セキュリティセミナーを開催している。 【総務】危機管理対応マニュアル及び情報セキュリティ管理規程に基づき対策を講じている。防災対策に関しては、年に1度教職員及び学生参加の防災訓練を実施している。	★継続して行う	【学支課】①情報セキュリティセミナー(8月27日開催)において、IPA(情報処理推進機構)が公開している「情報セキュリティ10大脅威2020」に基づき、現時点で注目しておきたい脅威や懸念等について理解を深めた後、実例を挙げながら、教職員(59人参加。昨年49人)へ注意喚起を行った。②課題なし	継続して行う	情報セキュリティ委員会	
	(根拠)【学支課】情報セキュリティ委員会議事録 【総務課】危機管理対応マニュアル、情報セキュリティ管理規程		(根拠)			
(7)SD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。 ①事務職員(専門的職員等を含む)は、SD活動を通じて職務を充実させ、教育研究活動等の支援を図っている。	毎年SD実施方針を大学運営協議会にて策定し、適切に実施している。事務職員には外部の研修や講習会に参加を促し、SD活動を通じて職務を充実させ、教育研究活動等の支援を図っている。	★継続して行う	-	-	大学運営協議会	
	(根拠)SDIに関する実施方針		(根拠)			
(8)日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行い、改善している。	各部署において日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行い、業務量が増加する中、業務遂行するよう、工夫し改善している。また、他部署との連携強化においては課長会で調整し、改善を図っている。	-	-	オンラインツールの整理統合が決定したので、それに合わせた業務改善に取り組む		
	(根拠)会議でのIpadを導入し、配布資料を削減		(根拠)			

	<p>(9)事務職員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう教員や関係部署と連携している。</p> <p>【教務課】教務課に、2019年度より「カリキュラム・コーディネーター、また2020年10月より「教学アセスメント担当」を配置し、各学科や関係部署と連携し業務を遂行している。</p> <p>【キャリア課】学習成果を効果的に獲得できるよう学科と連携している。</p> <p>【学支課】講義中における情報機器のトラブル等に迅速に対応できるよう、連絡体制を整えている。</p> <p>【図書課】毎年、他部署や学科と連携し、必要資料の購入や授業の成果を発表するビブリオバトル、英語科学生向けの文献検索セミナー、保育科学生向けの絵本読み聞かせ講座を開催するが、今年度はコロナ感染防止のため、ペンを中止や開館時間の短縮や利用制限を設けて対応した。</p>	<p>(根拠) 【教務課】・沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学教学マネジメント委員会規程、・沖縄キリスト教短期大学及び沖縄キリスト教短期大学教務委員会規程、・カリキュラム・コーディネーターについて(申し合わせ)・「教学アセスメント担当」について(申し合わせ) 【キャリア課】キャリア支援委員会規程、議事録 【学支課】なし 【図書課】告知、図書館委員会議事録、教授会議事録、大学運営協議会議事録、課長会議事録</p>	<p>【教務課】(課題:学習成果獲得向上に向けた教職協働の作業が必要) ★DPで示した資質能力の適切性の検証に向けたカリキュラム・ツリー及びマップの整備について、2019～2020年度に教職協働(各学科と教務課)で実施する予定</p> <p>【キャリア課】(課題:他部署との連携) ★教員とキャリア支援課職員が講師となり授業運営や教コマを職員が担当するなど、教職協働に取り組んでいる。継続して行う。</p> <p>【学支課】(課題:各部署との意見交換が必要である) ★関係部署との具体的な連携の身について検討する。</p> <p>【図書課】学生の学習成果のレベル向上のために何が必要で何をなすべきか、引き続き教職員や関連部署と連携する。</p>	<p>【教務課】①2021年度に向け、(新)カリキュラム・マップの整備を行った。②課題:学習成果獲得向上に向けた教職協働の作業が必要。</p> <p>【キャリア課】①コロナ禍の影響で一部中止になったがおおむね予定通りに実行できた。英語科は「キャリアアセスメント」のシラバス作成に関わり、キャリア課職員も3コマ、講師を担当した。保育科は「フレッシュマンセミナー」の1コマを予定していたが、コロナ禍で実行できず。②予定通りに行う。</p> <p>【学支課】①新入生等のオリエンテーションに際し紹介項目などの打合せを行った。 ・本学のICT環境の整備のあり方について、外部コンサルティングを入れ、アンケート調査などを方針を打ち出した。②課題なし</p> <p>【図書課】学習成果のレベルが向上するよう、以下の行事等を実施した。1.「慰霊の日」にあわせて関連資料の展示を行い、建学の精神の3本柱である「平和」についての理解を深める機会とした。2.他、広い視野を持つため、また教養を深めて国際社会でも貢献できるよう、留学・キャリア関連、同時通訳関連、小説フェア、クリスマス関連等の書籍展示やビブリオバトル等の行事を開催して本に親しむ機会をつくり、学習成果の獲得につなげた。</p>	<p>【教務課】 【キャリア課】コロナ禍の影響があった場合の対応について、学科との協議が必要。 【学支課】継続して行う。 【図書課】★継続して行う</p>	<p>【教務課】教務委員会、教学マネジメント委員会 【キャリア課】キャリア支援委員会 【学支課】情報システム委員会 【図書課】図書館委員会、教授会、大学運営協議会、課長会</p>
<p>基準Ⅲ-A-4 労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。</p>	<p>(1)教職員の就業に関する諸規程を整備している。</p> <p>(2)教職員の就業に関する諸規程を教職員に周知している。</p> <p>(3)教職員の就業を諸規程に基づいて適正に管理している。</p>	<p>就業規則を整備している。</p> <p>(根拠)就業規則</p> <p>諸規程はネットワーク内で自由に閲覧可能にしている。各部署に規程集を配備している。改正した場合は都度、配信している。</p> <p>(根拠)desknets、規程集</p> <p>教職員の就業を諸規程に基づいて適正に管理している。</p> <p>(根拠)就業規則、教育職員の勤務に関する規程</p>	<p>★継続して行う</p> <p>★継続して行う</p> <p>★継続して行う</p>	<p>-</p> <p>(根拠)</p> <p>-</p> <p>(根拠)</p> <p>-</p> <p>(根拠)</p>	<p>-</p> <p>-</p> <p>-</p>	<p>-</p> <p>-</p> <p>-</p>

B 物的資源

短期大学は、教育課程と学生支援の充実のために、短期大学設置基準に規定される校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備・活用しなければならない。物的資源の整備(取得/処分)・活用は、短期大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③【Act】 改善へ向けての取り組み	(必須) 検討する委員会等の名称
<p>基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備</p>	<p>(1)校地の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。</p> <p>(2)適切な面積の運動場を有している。</p>	<p>校地の面積は短期大学設置基準の規定第30条を充足している。</p> <p>(根拠)</p> <p>本学は運動場を有していないが、短期大学設置基準第27条の2に則っている。</p> <p>(根拠)</p>	<p>25/32</p>	<p>(根拠)</p> <p>(根拠)</p>		

の資源を整備、活用している。	(3)校舎の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。	校舎の面積は短期大学設置基準の規定第31条を充足している。				
		(根拠)		(根拠)		
	(4)校地と校舎は障がい者に対応している。	校地及び校舎には、手すり、視覚障がい者のための点字タイル、車いす用のスロープ、障害者トイレ等が整備されており、また学院内のエレベータには車いす用の操作パネルも設けるなど障がい者に対応している。				
		(根拠)		(根拠)		
	(5)学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を用意している。	学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を用意している。				
		(根拠)		(根拠)		
	(6)通信による教育を行う学科・専攻課程を開講している場合には、添削等による指導、印刷教材等の保管・発送のための施設が整備されている。	(該当しない)				
		(根拠)		(根拠)		
	(7)学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うための機器・備品を整備している。	学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うための機器・備品を整備している。	★継続して行う			
		(根拠)		(根拠)		
(8)適切な面積の図書館又は学習資源センター等を有している。	適切な面積の図書館を有している。					
	(根拠)		(根拠)			
(9)図書館又は学習資源センター等の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等が適切である。①購入図書選定システムや廃棄システムが確立している。②図書館又は学習資源センター等に参考図書、関連図書を整備している。	各学科や他部署に関連書籍の選定を依頼して書架の充実をはかり、参考図書も継続的に購入した。また除籍対象となりうる資料を選定し、書架の整理を行っている。	書架の狭域化を防ぐためにも、引き続き、除籍対象となる資料の選定やコレクションの更新を行い、書架の充実に向けた取り組み、整備する。	★継続して行う	図書委員会 学科会議 教授会		
	(根拠) 図書委員会議事録、教授会議事録		(根拠)			
(10)適切な面積の体育館を有している。	適切な面積の体育館を有している。					
	(根拠)		(根拠)			
基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。	(1)固定資産管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等を、財務諸規程に含め整備している。	経理規程の中に固定資産、物品に関する規程を盛り込んでいる。				
		(根拠)経理規程		(根拠)		
	(2)諸規程に従い施設設備、物品(消耗品、貯蔵品等)を維持管理している。	固定資産台帳を作成し、適正に維持管理している。	★継続して行う			
		(根拠)経理規程、固定資産台帳		(根拠)		
	(3)火災・地震対策、防犯対策のための諸規則を整備している。	防火管理規程、消防計画規程、危機管理規程、危機管理対応マニュアルを定めている。	(課題:防火管理規程は最終更新日が1977年2月2日のため、見直す必要がある。)★根拠規程2つの統合整備	防火、消防、危機管理等の諸規定の整備作業を行った。	防火、消防、危機管理等の諸規定の整備に努める。(継続)	
	(根拠)防火管理規程、消防計画規程		(根拠)			
(4)火災・地震対策、防犯対策のための定期的な点検・訓練を行っている。	1年に2回の割合で点検、年に1回の割合で訓練を骨子し、定期的に行っている。	(課題:授業中の避難訓練ができていない)★より実践的な訓練とするため、多くの学生が参加できる訓練の検討を行う。	コロナウイルス感染リスクの観点から、今年度の避難訓練は行えなかった。	多くの学生が参加できる訓練の検討を行う。		
	(根拠)消防用設備等点検結果報告書、消火訓練実施通知・報告書		(根拠)			
(5)コンピュータシステムのセキュリティ対策を行っている。	全てのサーバ機器、及びパソコンにウイルス対策ソフトを導入しており、管理システムでは各機器の動作状況をリアルタイムで監視している。	★継続して行う	-	-	情報システム委員会	
	(根拠)現物確認		(根拠)			

(6)省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされている。	機器更新時に省エネルギー型のものに変更したり、学生への省エネルギーを呼び掛ける等の掲示を行っている。また、一部の会議においてはiPad等の活用を始めペーパーレス化を実現している。	★継続して行う	-	-
	(根拠)	(根拠)		

C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

技術的資源をはじめとするその他の教育資源は、教育課程と学生支援を充実させるために十分なものでなければならない。技術的資源をはじめとするその他の教育資源の整備・活用は、短期大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。短期大学は、学生の学習、教育研究に対する学内外のネットワーク及び運営体制のニーズに合わせた技術的資源を有し、その利用については目的・行動指針を定めるとともに、自己点検・評価を通じて活用しなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等の 名称
基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。	(1)学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術サービス、専門的な支援、施設設備の向上・充実を図っている。	(総務)学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて施設設備を導入する際に予算等を協議し、向上・充実を図っている。 (根拠)【総務】予算申請書類、稟議書	★継続して行う	-	-	情報システム委員会
	(2)学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて情報技術の向上に関するトレーニングを学生及び教職員に提供している。	1年次(全科)の必修科目として「コンピュータリテラシー」を開設している。教員については、ICTの活用方法や授業改善手法の習得を目的とした「ICT教育研修会」を実施している。 (根拠)シラバス、研修会実施報告書	★継続して行う	-	-	情報システム委員会
	(3)技術的資源と設備の両面において計画的に維持、整備し、適切な状態を保持している。	【学支課】必要な教室にプロジェクター等のICT機器を整備しており、定期的な点検、及びメンテナンスを行っている。 【総務課】技術的資源と設備の両面において維持、整備し、適切な状態を保持している。 (根拠)【学支課】液晶プロジェクター点検報告書	【学支課】★継続して行う 【総務課】(課題:計画的にという部分で、財政面の制約から後ろ倒しにしている設備が若干ある。)★厳しい財政事情にあっても計画的な整備をするべく、計画を立てる。	【学支課】- 【総務課】設備の面では、必要な設備を優先的に設置し、整備している。	-	【学支課】情報システム委員会 【総務】法人事務連絡会議
(4)学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術的資源の分配を常に見直し、活用している。	同時通訳者養成を核としたコンピュータ教室の配置、及びソフトウェアの選定を行っている。また、インターネットを通じて学生への課題提示や回収が行えるよう、本学独自の授業支援システム(通称:iLAS)を構築している。技術的資源として、専門部署を設置している。	同時通訳者養成を核としたコンピュータ教室の配置、及びソフトウェアの選定を行っている。また、インターネットを通じて学生への課題提示や回収が行えるよう、本学独自の授業支援システム(通称:iLAS)を構築している。技術的資源として、専門部署を設置している。 (根拠)情報システム委員会議事録	(課題:既存のネットワーク機器等が老朽化しているため、学内ネットワークの見直しも含めたりブレース計画の策定が必要)★学内ネットワークの見直しについては、2020年度中に委員会において審議を行う。	-	-	情報システム委員会
	(5)教職員が学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業や学校運営に活用できるよう、学内のコンピュータ整備を行っている。	全教職員にPCを配布している。 (根拠)パソコン管理簿	★継続して行う	-	-	情報システム委員会
(6)学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて、学生の学習支援のために必要な学内LANを整備している。	学内全てのパソコンがインターネットに接続でき、それに加えて無線LAN環境も整備している。	学内全てのパソコンがインターネットに接続でき、それに加えて無線LAN環境も整備している。 (根拠)学内ネットワーク構成図	★継続して行う	-	-	情報システム委員会
	(7)教員は、新しい情報技術などを活用して、効果的な授業を行っている。	【保育科】①学内情報共有システムiLas、パワーポイントや視聴覚教材、Google Classroom、Microsoft Teams等を活用し、効果的な授業を実施している。 【英語科】学内情報共有システムiLasなどを活用している (根拠)【保育科】講義内でのパソコンやiPadなどのICT機器の活用。 【英語科】ICTを活用している(例)iLAS	★継続して行う	【保育科】- 【英語科】2020年度では、Google Suite、Zoom、Microsoft365やiLasを活用した。 (根拠)【英語科】遠隔授業時ICTツール一覧表 前期・後期に作成(エクセルの一覧表)。教務課代替授業申請。	-	
(8)学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うコンピュータ教室、マルチメディア教室、CALL教室等の特別教室を整備している。	授業を行うコンピュータ教室等を整備している。(コンピュータ教室PC 42台、CALL教室PC 90台、図書館内フリーPC 12台)	★継続して行う	-	-	-	情報システム委員会

校長等の付加校長室に設置している。	(根拠) 現地確認	(根拠)	
-------------------	--------------	------	--

D 財的資源

財的資源は、教育課程と学生支援を充実させ、教育機関としての向上に十分なものでなければならない。財的資源の適切な配分によって、教育課程と学生支援を開発し、整備し、その向上が図られる。短期大学は、経営判断指標に基づき実態を把握し、財務上の安定を確保するように経営計画を策定し、管理しなければならない。財的資源の管理は、短期大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等の 名称
基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している。	(1)計算書類等に基づき、財的資源を把握し、分析している。①資金収支及び事業活動収支は、過去3年間にわたり均衡している。②事業活動収支の収入超過又は支出超過の状況について、その理由を把握している。③貸借対照表の状況が健全に推移している。④短期大学の財政と学校法人全体の財政の関係を把握している。⑤短期大学の存続を可能とする財政を維持している。⑥退職給付引当金等を目的どおりに引き当てている。⑦資産運用規程を整備するなど、資産運用が適切である。⑧教育研究経費は経常収入の20%程度を超えている。⑨教育研究用の施設設備及び学習資源(図書等)についての資金配分が適切である。⑩公認会計士の監査意見への対応は適切である。⑪寄付金の募集及び学校債の発行は適正である。⑫入学定員充足率、収容定員充足率が適当な水準である。⑬収容定員充足率に相応した財務体質を維持している。	入学者減少等で収入が落ち込み、事業活動収支は支出超過となった。 人件費については、冬季賞与の抑制を行った。	(課題:収支均衡に向けた取り組み) ★収支均衡に向けた全学的な取り組みを検討する	①「教職協働SD」を開催し、財務状態の認識を共有した。 「緊急対策会議」を開催し、入学者確保について対策を講じた。 ②収支均衡に向けて対策を講じる。	(課題:収支均衡に向けた取り組み) ★収支均衡に向けて対策を講じる。	法人事務連絡会、理事会
	(2)財的資源を毎年度適切に管理している。①学校法人及び短期大学は、中長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定している。②決定した事業計画と予算を速やかに関係部門に指示している。③年度予算を適正に執行している。④日常的な出納業務を円滑に実施し、経理責任者を経て理事長に報告している。⑤資産及び資金(有価証券を含む)の管理と運用は、資産等の管理台帳、資金出納簿等に適切な会計処理に基づいて記録し、安全かつ適正に管理している。⑥月次試算表を毎月適時に作成し、経理責任者を経て理事長に報告している。	中長期的な財政計画に基づき、各年度の事業計画を策定し、財的資源は毎年度適切に管理している。	★継続して行う	中長期的な財政計画に基づき、事業計画を策定し、財的資源を適切に管理した。	★継続して行う	法人事務連絡会、理事会
基準Ⅲ-D-2 日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。	(1)短期大学の将来像が明確になっている。	第4次中長期五ヵ年計画の4年目になる2020年度は、学院をとりまく環境の変化したことにより、課題の整理及び計画の見直しを行い、新たに第5次計画を策定する方向で進めている。	★2020年度はここまでの実績の検証および第5次中長期計画に向けたビジョンの制定に取り組み始める	第4次中長期計画は見直しの方向で進めている。課題や方向性を整理した。	次年度は、第4次中長期計画の総括及び第5次計画の策定に向けて取り組む	
	(2)短期大学の強み・弱みなどの客観的な環境分析を行っている。	客観的な環境分析は行っていない	★外部評価等を含め、客観的な環境分析を行う準備を始める	実施には至らなかった	(継続)客観的な環境分析を行うため、1つの視点としての外部評価委員会を開催する。	
	(3)経営実態、財政状況に基づいて、経営(改善)計画を策定している。①学生募集対策と学納金計画が明確である。②人事計画が適切である。③施設設備の将来計画が明確である。④外部資金の獲得、遊休資産の処分等の計画を持っている。	関係部署で議論は進めているが、計画の策定までには至っていない	★計画の策定に向けて取り組む	関係部署で議論は進めているが、計画の策定までには至らなかった。	(継続)計画の策定に向けて取り組む	
	(4)短期大学全体及び学科・専攻課程ごとに適切な定員管理とそれに見合う経費(人件費、施設設備費)のバランスがとれ	人件費依存率が高く、バランスを崩しつつある。	★大学全体で定員管理等見直しを進める	定員管理等の見直しまでは行えなかった。	(継続)大学全体で定員管理等見直しを進める	

ている。	(根拠)	(根拠)	
(5)学内に対する経営情報の公開と危機意識の共有ができています。	決算報告、財務状況説明会を毎年SDとして実施しており、公開と危機意識の共有ができています。	(課題:危機意識は共有しているものの対策についての共有も必要。)	(継続課題)危機意識は共有しているものの対策についての共有も必要。
	(根拠)SD資料	(根拠)SD資料	

基準Ⅲ 自己点検委員会 評価	<p>人的資源については、短期大学設置基準に定められた必要人員を配置し、採用昇任基準に関する規程に基づき採用昇任が行われる等、概ね基準を満たしていると判断できる。保育科については、再課程認定を見据えた、人員配置の適切性を厳密に評価する必要がある。専任教員の研究活動が教育課程編成に基づくものであることを明確にするため研究計画書・報告書の様式が変更され、今後の記述内容適切性を検証する必要がある。FDについては、教学マネジメント指針に基づく階層的な取り組みについて引き続き検討する必要がある。学生の学習成果獲得への各部署連携については、学生の個人情報情報を横断的に活用することを引き続き検討すること、ActiveAcademy修学ポートフォリオの活用について検討する必要がある。労務管理については就業規則等の規則が整備され適正に管理されている。物的資源、技術的資源、その他教育資源については、概ね基準を満たしているが、今後ともリモートによる授業に耐えられるよう施設設備の整備を進めるとともに、FD等によるICT活用技術の向上への取り組みが必要がある。財務資源については、2019年度に引き続き2020年も基本金組入後収支差額がマイナスとなっており、中長期計画において、財務改善策を策定し、健全化に向けた取り組みが必要である。</p>
---------------------------------	---

基準Ⅳ. リーダーシップとガバナンス

短期大学の教育の使命を果たすために、積極的にリーダーシップが発揮され、ガバナンスが有効に機能していることを明確に示す。
 理事長を中心とする管理運営組織が、経営責任の視点に立って学習成果を焦点とした短期大学教育の向上・充実を目指していることを明確に示す。
 財務等の情報公開を通じて、社会に対して説明責任を果たし、関係者の理解と協力を得られるよう努めていることを明確に示す。

短期大学が継続的に発展するためには、リーダーシップとガバナンスが極めて重要である。リーダーシップは、短期大学の継続的な向上・充実を図るために、組織全体を動かす上で最も重要なことである。ガバナンスは、理事長、学長の意思決定やリーダーシップが短期大学の向上・充実に対して適切に発揮されていることを確認することである。短期大学における最高意思決定機関は理事会である。理事長は、理事会を通じてリーダーシップを発揮しなければならない。また、教授会は学校教育法において、大学の重要事項を審議し、学長に意見を述べる機関として位置付けられている。学長は、短期大学の各々の規程に従い、教授会を通じてリーダーシップを発揮しなければならない。理事長と学長は、リーダーシップを発揮し、理事会と教授会の責任と役割を明確にし、相互に協力して運営に当たる必要がある。経営環境が厳しくなる中で、各短期大学は自ら経営改革を図ると同時に経営倫理の見直しを図らなければならない。組織体を経営するに当たっての倫理、「経営倫理」とは経営の効率性・合理性の追求だけでなく、倫理に基づく人間性・社会性とのバランスを取った組織経営を実践していくことであり、無責任な体質を脱却し、責任を明確にした経営システムを確立することである。経営倫理の確立を着実に推進し、定着させることが重要であり、理事長がその責任を果たすべきである。短期大学は、学生の在学中に経営破たん陥ることがあってはならない。理事会は、その責任を十分に認識し、学習成果を焦点にした恒常的かつ系統的な自己点検・評価を行い、万が一にも破たん状態に陥ると判断する場合には、速やかに学生の募集停止を行い、部門の廃止への準備を進めることも必要である。これら一切の経営に関する計画の見直し整備を図ることはもとより、必要な決断は、リーダーシップの重要な責務である。短期大学は、質の高い教育を行い、学生を教育して卒業させることが最も重要な使命であり、高い公共性と大きな社会的責任を有している。そのため短期大学は、社会や地域に対して積極的に財務情報・事業計画を公開し、関係者の理解と支援を得るために努力しなければならない。短期大学が、その透明性を確保して積極的な情報公開を進めていくことは、産学連携や地域貢献を図る上でも、寄付金や学校債を募集する上でも有効である。

A 理事長のリーダーシップ

理事長は、建学の精神に基づき、学校法人の公共性を高め、短期大学経営を先導していくリーダーシップと経営責任を果たさなければならない。

理事会は理事長の経営判断や執行を補佐する最高意思決定機関であり、経営の効率性・合理性の追求だけでなく、倫理に基づく人間性・社会性とのバランスが取れた経営を実践し、理事長の経営責任と監事の監査機能の強化により、経営問題の解決やリスク・マネジメント(危機管理)を強化しなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020 【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③ 【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等の 名称
基準Ⅳ-A-1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している。	(1)理事長は、学校法人の運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。①理事長は、建学の精神・教育理念、教育目的・目標を理解し、学校法人の発展に寄与できる者である。②理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理している。③理事長は、毎会計年度終了後2月以内に、監事の監査を受け理事会の議決を経た決算及び事業の実績(財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書)を評議員会に報告し、その意見を求めている。	理事長は学校法人沖繩キリスト教院院寄附行為第5条に基づき選任しており、学校法人の運営全般にリーダーシップを発揮している (根拠)理事会、評議員会議事録、寄附行為、法人事務連絡会議規程	★継続して行う	★継続して行う	-	
	(2)理事長は、寄附行為の規定に基づいて理事会を開催し、学校法人の意思決定機関として適切に運営している。①理事会は、学校法人の業務を決議し、理事の職務の執行を監督している。②理事会は、理事長が招集し、議長を務めている。③理事会は、認証評価に対する役割を果たし責任を負っている。④理事会は、短期大学の発展のために、学内外の必要な情報を収集している。⑤理事会は、短期大学の運営に関する法的な責任があることを認識している。⑥理事会は、学校法人運営及び短期大学運営に必要な規程を整備している。	理事長は、寄附行為の規定に基づいて理事会を開催し、学校法人の意思決定機関として適切に運営している。 (根拠) 寄附行為	★継続して行う	★継続して行う	-	
	(3)理事は、法令及び寄附行為に基づき適切に構成されている。①理事は、学校法人の建学の精神を理解し、その法人の健全な経営について学識及び識見を有している。②理事は、私立学校法の役員選任の規定に基づき選任されている。③寄附行為に学校教育法校長及び教員の欠格事由の規定を準用している。	理事は、法令及び寄附行為に基づき適切に構成されている。 (根拠) 寄附行為	★継続して行う	★継続して行う	-	

B 学長のリーダーシップ

学長は、建学の精神に基づき、教育の質を保証しなければならない。質の保証とは、教育課程と学生サービスに対する学生ニーズの評価、教育目的の設定、教員組織・施設設備・財的資源の配分、そして教育の実践について明確に示ることである。また、教育目的・目標の達成のために、学習成果の獲得の質的・量的データを収集・解釈し、適切に教育機能を向上させるために自己点検・評価を行わなければならない。

教授会は、教授会規程に基づき、学長(又は規程に定める者)が議長となって法令に定められた事項、その他教育研究に関する重要事項で学長が必要と定めたものについて意見を述べるほか、学長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。学長は、教授会の意見を聴いて、リーダーシップを発揮し、最終的な判断を行わなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月状況	① 2020 【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③ 【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等の 名称

基準IV-B-1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学運営体制が確立している。	(1)学長は、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。①学長は、教学運営の最高責任者として、その権限と責任において、教授会の意見を参酌して最終的な判断を行っている。②学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有している。③学長は、建学の精神に基づく教育研究を推進し、短期大学の向上・充実にに向けて努力している。④学長は、学生に対する懲戒(退学、停学及び訓告の処分)の手續を定めている。⑤学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督している。学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督している。⑥学長は、学長選考規程等に基づき選任され、教学運営の職務遂行に努めている。	学長は、沖縄キリスト教短期大学及び短期大学学長選任規定に基づき選任され、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。	★継続して行う	★継続して行う	-	
	(2)学長等は、教授会を学則等の規定に基づいて開催し、短期大学の教育研究上の審議機関として適切に運営している。①教授会を審議機関として適切に運営している。②学長は、教授会が意見を述べる事項を教授会に周知している。③学長は、学生の入学、卒業、課程の修了、学位の授与及び自ら必要と定めた教育研究に関する重要事項について教授会の意見を聴いた上で決定している。④学長等は、教授会規程等に基づき教授会を開催し、併設大学と合同で審議する事項がある場合には、その規程を有している。⑤教授会の議事録を整備している。⑥教授会は、学習成果及び三つの方針に対する認識を共有している。⑦学長又は教授会の下に教育上の委員会等を規程等に基づいて設置し適切に運営している。	学長は短期大学に短期大学部長をおき、部長が議長となって教授会を開催し、短期大学の教育研究上の審議機関として適切に運営している。各種委員会は併設する大学と合同で設置し、適切に運営している。	(根拠)沖縄キリスト教短期大学教授会規程、学則第27条、学生懲戒処分規程、沖縄キリスト教短期大学及び短期大学学長選任規程	★継続して行う	★継続して行う	-
		(根拠)沖縄キリスト教短期大学教授会規程、沖縄キリスト教短期大学及び短期大学学長選任規程				

C ガバナンス

ガバナンスは、理事長、学長の意思決定やリーダーシップが短期大学の向上・充実にに対して適切に発揮されていることを確認することである。理事会の権限と責任が有効に機能しているかを確認する上で、監事と評議員会がその役割を担い、責任を果たす。監事は、業務及び財産の状況について監査を行い、監査報告書を作成して、理事会及び評議員会へ提出しなければならない。評議員会は、予算及び事業計画の諮問、決算報告、事業の実績報告の諮問など、原則として理事長を含め役員との諮問に答えなければならない。

区分	留意点	④【最新の実施状況】 2021年3月 状況	① 2020 【Plan】 ()は前年度からの課題 ★は改善に向けての取り組みPlan	②2020Planに対する【Do, Check】 ① ★Planの実施状況・ ② 課題、実施の根拠(エビデンス)	③ 【Act】 改善へ向けての 取り組み	(必須) 検討する 委員会等の 名称
基準IV-C-1 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。	(1)監事は、学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査している。	監事は、学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査している。 (根拠) 監査計画書、監査報告書	★継続して行う	★継続して行う		
	(2)監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会及び評議員会に出席して意見を述べている。	監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会及び評議員会に出席して意見を述べている。 (根拠) 理事会、評議員会議事録	★継続して行う	★継続して行う		
	(3)監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出している。	監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出している。 (根拠) 理事会、評議員会議事録	★継続して行う	★継続して行う		
基準IV-C-2 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催し、理事長を含め役員との諮問機関として適切に運営している。	(1)評議員会は、理事の定数の2倍を超える数の評議員をもって、組織している。	評議員会は、理事の定数の2倍を超える数の評議員をもって、組織している。 (根拠) 寄附行為、評議員名簿	★継続して行う	★継続して行う		
	(2)評議員会は、私立学校法の評議員会の規定に従い、運営している。	評議員会は、私立学校法の評議員会の規定に従い、運営している。 (根拠) 評議員会議事録、寄附行為	★継続して行う			
基準IV-C-3 短期大学は、高い公共性と社会的責任を有してお	(1)学校教育法施行規則の規定に基づき、教育情報を公表している。	学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる教育情報の公開をHPで行っている。	★継続して行う	継続して実施	継続して行う	

り、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たしている。	(根拠)HP、情報の公開及び開示規程		(根拠)	
	(2) 私立学校法の規定に基づき、財務情報を公開している。	私立学校法の規定に基づき、毎年度適切に財務情報を公開している。	★継続して行う	私立学校法の規定に基づき、適切に財務情報を公開した。
	(根拠)HP、情報の公開及び開示規程		(根拠)	★継続して行う

基準IV 自己点検委員会 評価	<p>理事長、学長ともに寄付行為に基づいて選任されており、規定に従って全体を統括している。いずれも建学の理念と目標を深く理解して学院のカバナスを保持している。それぞれ理事会と教授会の長として相互に協力して運営に当たっている。学長は、短期大学教授会と学院全体の各種委員会と運営協議会を規定に従って定期的に開催し、現状を把握した教育実践を行なっている。学部長を選び教授会の議長を任せることによって、適切な運営をしている。監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会及び評議員会に毎回出席して会計年度の監査報告書を作成し意見を述べている。評議員会は寄付行為の規定に従って諮問を行い、理事会による最高決議を監事とともに確認している。教育情報と財務情報は、HPで公開している。</p>
----------------------------------	---